女學雜誌

一册六錢

各土曜日發兌

第百八拾五號

當府內無郵税

郵税五厘

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 185. NOVEMBER 2ND, 1889.

EDITORIAL :—To-morrow, the 3rd of November.
LEADING ARTICLES :—Old Ceremonial Rites concerning the Naming of the Heir to the Imperial Throne. (Dr. K. Konakamura.) The Ideal New Japan. (K. S.)
CRITICAL NOTES :—"The Women of the Orient." "Characteristics of the Modern Merchants" by Mr. Aiba. "An Upright Son" by S. T. T.
MISCELLANEOUS :—A Pretty Face and the Inside Skeleton. A Little World of Fine Arts. Woman and Paintings. Sir Walter Scott's Hours of Study. A Kiss. Sorrow of Childlessness. Three Little Jewels. The Ten Best Japanese Novels. On the Relation between the Forest and the Rain-fall (N. Baba.) Rhetorical Marks. Persons who influenced *Hai-kai* Poems. Two Great Disciples of Bashō.
NOVEL :—"Sumire" (Wakamatsu Shizu.)
OPEN LETTERS :—One word to the Editor of Jogaku Zasshi. A letter to Mr. S. N. Some Answers.
CONTRIBUTED ARTICLES :—Dress for Women. Uses of Salt.
NOTES ON THE NEWEST ISSUES.
NOTES AND NEWS.
CONCERNING WOMEN.
SINCE OUR LAST ISSUE.

第百八十五號目錄

社說　翌る十一月三日
論說　皇太子の舊事(小中村淸矩)○理想的新日本
批評　東洋の婦女○篁村先生の「當世商人氣質」○石點頭氏の「きむすこ」
雜錄　美貌面骨○一の小天地○女性と繪畫○スコットの勤學時間○接吻○子なきの歎○談話の珠三點○日本最上小說十種○雨と林との關係に就て(馬塲信倫)○文學上の符號○俳諧を振ひし人、俳諧を滅せし人○蕉門の二大家は俳諧壇の惡覺
寄書　女子の服裝(在米國花の家中原)○シホの効用
開書　女學雜誌に物申さん○高等女學校前教頭閣下
時事　天下大亂、天下太平○政海暴風の旅日記○盲者大象を撫す○謹みて三條公爵に謝す○中止后の唯一策○女學雜誌の主義○政黨及び婦人○吾人が地位○女性の裏情○婦人慈善會○敢て一言す○國會及婦女子○政黨並に離緣の事○細君○楠正成○我國の男女
女報　東京感化院慈善會○大隈伯の看護婦○其他八件

WOMEN IN JAPAN.

(1) In order to express their sympathy, two delegates, from the "Ladies' White Ribbon Association," Mrs. T. Sasaki and Mrs. T. Ushioda lately called upon the house of Count Okuma, who was severedly wounded by the assailant.

(2) That Countess Okuma is a prudent and intelligent lady has been known by many people, but that she has a vigor and presence of mind was proved by the recent disastrous occurrence. When Count Okuma was examined by Dr. Takagi and others, it was found necessary to amputate his right leg But they could not dare to perform this operation without the consent of the Countess, and as they were doubtful whether the Countess would soon consent or not, and moreover, as the operation was needed to be performed at once, the moment was extremely critical. On being told, however, she gave an express approval without the slightest hesitation, and consequently, amputation was performed without the least delay and with much success. Besides nursing and watching over the Count with extreme tenderness, she has been ever entertaining to the callers who inquire after the Count's condition.

(3) Certain members of St. Paul's Church, Irifune Cho, Tsukiji, intend to send some old clothing and bedding stuffs to the sufferers from the flood in Wakayama and Nara Provinces. They earnestly solicit the public to send them what old stuffs they have got. As cold weather is gradually approaching, such undertakings would be of great service to relieve the sufferers. The stuffs to be contributed will be received every day from 8 a.m. to 6 p.m. at the Mei-Kyo School, care of St. Paul's Church, Irifune Cho, Tsukiji. In order to defrey sundry expenses, &c., contribution in money will also be welcome

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

女學雜誌 第百八十五號 明治二十二年十一月二日發兌

社説

○翌る十一月三日

某と云ふ人の愛子元服の記に、わが子年立ちて大きくなり、之に元服さす、彼は一と年成人してわれは一年老りたりと云へど、子供の成長つて共に己の若く覺うるは親の情なりと、眞とに是れ人情至眞の所ろ、老少其命ちを忘れ相祝するの時なり、吾人今日に於て特に之を感ず。

明治二十二年は、今上皇帝降誕の后ち、第三十八年にして、謹みて聖壽を算し奉れば、翌る十一月三日を以て御年三十七才とならせ玉ふ、則はち昔し御醍醐帝が中興の御心を定め、固く志を決して鎌倉を滅さんと謀らせ玉ひたると御同年にてある也。然るに今上皇帝は文德武德古來の列聖に超越遊ばされて、其十七才に成らせ玉ふ時、すでに古今類いなきの維新大業を打建て玉ひ、爾來二十有二年の間だ、國運を日月と共に進歩せしめ、今日大日本帝國の光榮をして高く坤輿の東方に輝めかしめ、四千万の民草をして其御恩化に潤ほいて全世界に聳びえしめ玉へると、一に是れ皇帝陛下の威德洪大なるに由らねはなし。然るに陛下は明日を以て立皇太子の式を執行せしめ玉ふよし、兼て天下の衆民に布告あらせ玉ひ、此の寶壽尤も壯んに、國家尤も安康に、人民尤も和樂するの當年當日に於て、列帝萬民共に懽呼唱賛する此式を執り行わしめ玉ふと承わり、吾人陛下の忠實なる臣民は、感泣奉賀の念に禁ずると能はざる也。

嘉仁親王明宮の殿下は、今上皇帝第三の皇子にして、母は今上皇后宮、明治十二年八月三十一日に御生誕あり、本年明日に於て寶壽十歳三ヶ月に成らせ玉ふ、天質聰慧鋭敏にして、慈悲の御志特に深く、然も威望自づからに備わりて、異日万機を總將し、四千万民の天父と成らせ玉ふは、決して此御方の外にあるまじと思はれ奉まつる。然るに今ま、皇帝陛下及び皇族一同の御推撰によりて、皇太子に立られ、陛下百歳の后ち此の豊葦原瑞穗國を治ろし召さんやう相成りたると、吾人日本臣民の總躰が欣喜躍賀する所ろたるのみならず、天神地祇列帝万后の共に祝賀し玉ふ所ろなるべし。

大凡そ事の尤とも祝謝すべきものは、之を祝謝するの辭ばなきに苦しむものなり、若し明鏡あらば吾人が衷情を悉とく寫出すべし、何如なる文家ありと云へども悉とく之を叙述せん

と甚はだ難きに似たり。故に吾人は千語万言を述べず、只だ衷情を以て、眞情を以て、愛皇忠民の大日本國魂を以て、之を祝し奉まつるべし、而して此の尤も祝すべきの大式が殊に尤も正當適切なるの時機に於て執行せらるゝのことに付きては、敢て左に數言の祝辭を重ねざる可らず。

皇太子冊立の大事は、何如なる聖代に於ても謹しみて慶賀すべきもの也、然れども今まや帝國憲法、議員法、衆議員選擧法、及び貴族院令等すでに確定明達せられ、來二十三年の天長節以前、即はち今日以后決して一ヶ年を超へざるの年月中に、此の大日本は、天皇統治總攬の下に於ける、大日本國永世の憲法により、大日本國民が代議政治すべきものなりとの一事堅定せられ了り、昔し仁德皇帝の「天爲レ民立レ君」と仰せられたるの聖旨明白に實行せられんとするを見得たるの后、初めて正に此の大式あるは、即はち更に賀すべきものにあらずや。陛下維新の大業を成就し、先づ五條の御誓言を下し玉はりしとは、明治の歷史以后万世を貫ぬきて確立するものなりと云へど、陛下が即位以來の聖望を明白に憲章し、明年以后此の國を万衆と共に治ろし召さんとするの運びに至れる今日、初めて皇太子を立て、其の聖跡を踐ましめ玉はんとすると、恰かも是天皇万世の礎を大安固にし、異日毫末も維新の聖語に反すると勿らしめて、而して后ち之を皇太子に讓り玉わんずるの聖意を現はすに似たり。故に今日に至り初めて冊立の事あるは、更に一層に高德を顯表するものたり、吾人特に之を慶賀し奉まつらざる可らず。

中古天智帝即位し、我國の法章を定め玉ふ、晩古後醍醐帝即位し、王權を定め玉ふ、共に中興の明君にして列帝中至聖の君たり、然るに前には齊明天皇の之を欽定せられざりしにより、天智帝治世の下にも尙ほ大海人王子の反あり、后には御宇多法皇の可き玉はざりしにより、辛ふじて尊治親王立つて後醍醐帝に爲らせ玉ひき、左れば皇帝極盛の時、早く皇太子を定立し玉はざれば、往々后に遺憾とするとなき能はず、今日陛下盛隆の代に先此大式あるは即はち善後長久の策なり。

而して其の皇太子撰立の事に付ては、陛下其聖權を以て只だ御一人にて是れを定め玉はんとも、万民は皆な之に倚安して則はち揚歌謳祝し奉まつるべきに、陛下は尙ほ親から之を獨斷し玉はず、先づ皇室典範を定めて皇位繼承の大法を確明し、皇族總躰が之に據りて同議協定したる所ろのものを執つて、而して后ち親裁を下し、皇室は陛下御一己の皇室に非ずし

て實に天下の皇室あるとを示し、其跡を公明正大に其意を明々白々にして、啻に吾人臣民をして倚安せしめ玉ふ耳ならず、更に之によつて陛下の高德を敬慕頌謳せしめ玉ふとは、實に吾人臣民一層の幸福にあらずや。故に皇室典範を窺ひ得たるの后ち、今日に至り始めて冊立の事あるを承わる事、吾人特に之を慶賀し奉まつらざる可らず。

尙又我國今日の外交は特の外に靜謐あり、彼歐洲列國の關係は今にも雲雷怪裂の狀あるに關はらす、吾等が此の生國は東洋に安臥して旭日の登ると共に快然たり、又た國中至つて平安にして、干戈の動かざると十餘年、祝砲を聞くの外が未だ嘗て砲聲を聞かず、四民堵に安んじ、人文自由にして、國家ともに富强に向ふ、眞に是れ天下太平の時なり。而して、陛下は、人壽最强最壯の年限に入らせ玉ひ、兼ては折々微恙あらせられて、其都度万民ともに痛憂し奉りしともありつるに、此一二年は特に壯健に渡らせ玉ひ、天に日蝕なき如く、地に一日だも龍身に恙がましますとも承わらず、玉躰尤も健やかに起居あらせ玉ふ。然のみならず、多年時世の止むを得ざるによりて、內閣の變迭窮まる所ろなく、或は藩閥政府となり、或は勳臣政府となり、間ま陛下創始の聖旨に全合せざるものもあるやの恨ありけるに、本年去月は內閣に近史無類の大英斷あり、三條內府新たに內閣を組織し、純然たる責任聯帶の政府結搆せられたるを見たり。今日は夫れ如此く祝すべきの時なり、外は安く、內は平らかにして、內閣安固、陛下亦万々歲の時なり、此時に於て冊立の事あるは尤も慶賀すべきものにあらずや。若し夫れ陛下不豫、內閣不定、國中亂離、外交危殆あるの日に於て皇太子冊立の事あらば、外人はいよ〳〵之を危ぶみ、內閣はいよ〳〵動き、民心は歸する所ろなく、寧しろ陛下の難やみ重からんかを疑ふべし、如此き時に於ては彼の尤も祝すべき冊立の事は則はち反つて尤も憂ふべきの兆となるべし。然るに今日の內治外交は現に見るが如く、陛下の勝健に居ますとは彼の天日のかゝやくが如し、此時に於て此大式あり、吾人安んぞ特に慶賀し奉まつらざるを得ん。

特に我が眞正至仁なる皇后陛下の文德は、之より更に益々發輝すべし、過去二十二年の歷史は、陛下の內助著大なるとを示せり、今や東宮定まり、新に皇太子を見る、今后陛下が其慈育の盛功を顯はすの時至れり、新皇太子の武德は、すでに其親王たるの御時より輝やきたり、然れども其の天日東登し、光榮大射するは、正に之より以后あり、而して皇太子の武德

いよ〳〵顯榮し、異日今上皇帝万々歳の后ち、東宮正に天に中して四方を治ろし召し、其御德の更にいよ〳〵明らかとあらん日迄で、我が皇后陛下、母としての慈育の恩化は、日にます〳〵明らかとなるべし、故に吾人は我一千九百万の女性に代りて、今日まづ之を皇后陛下の爲に奉祝せざる可らず。

又た、皇太子は陛下第三の皇子にして、皇太后宮の皇孫たり、人情、孫を愛すると其子を愛するに愈るとかや、今まわれ〳〵下様の人情を推して、遙かに雲上天上の御方を推し奉まつるは、甚はだ恐れ多きに似たれど、凡そ皇族は人の絕頂にして其愛限りなく、所謂る人情此に至つて大純を極むるものなれば、今日皇孫新たに東宮に立たせ玉ふを御覽じて、皇太后陛下の御喜び定めて無上ならんと推し奉まつらる。陛下の御子は古今の大業を成就あらせ玉へり、而して其の又の御子は生來英明にして更らに此の偉跡を履み玉わんとあす、陛下之を見そなわして、遙かに先帝の御事を追懷遊ばし、御衣しづかに潤ほふと共に、又御子孫のいよ〳〵盛あるとを祝し玉ふべきか。昔し皇孫天下りして八荒を鎭撫し玉ふとき、天神雲上より之を覩ふて定めし莞爾となし玉ひつらん、吾人遙かに陛下の高風を仰ぎて、亦此感を懐き奉まつる、左れば安んぞ玆に陛下の爲に、又此の大式あるとを奉祝せざる可けん。

吾人史を讀み、稚郎子、天下を讓るの段に至る每に、未だ甞て慨然卷を掩ふて泣かざるとあらず、論者之を是非し、切りに三年虛位の事を論難せり、然れども當年の稚郎子王子たるもの、其悌情、公念を相戰はせて、遂に自殺するに至る、苦痛悶憂まことに察すべき也、國家固より重く、私情固より輕し、然れども他日の仁德帝たるものを見て、且つ先帝の遺愛する所ろを思ふもの、安んぞ躊躇彷徨して其情に死せざるあらん、稚郎子の自殺は泰伯の文身に似たり、吾人固より其可否を冷評せず、直ちに其情の切まる所ろを見るべし。然るに明治の帝室に於てはすでに皇太子を得たり、天皇明らかに之を親定し玉へるのみならず、皇室典範之を贊し、總べての皇族之に同じ、大日本帝國憲法之を證し、四千万の臣民仰いで之を頌賀したり、陛下の壽万歲にして、更に皇太子の壽を加ふ、我が明治の帝室は以后万々歲、安固靜定なり。

斯くて明日に於ていよ〳〵其大式あらんとす、女學雜誌は今日發兌の公許を得たるが故に、前一日に於て先づ之を祝するの祭を壽むる、吾社の光福千才究まるあし。

皇帝陛下………万歳。
皇太后陛下………万歳。
皇后陛下………万歳。
皇太子陛下………万歳。
大日本帝國憲法、皇室典範、四千万民の自由、………万々歳。

論説

○皇太子の舊事

文學博士　小中村清矩

皇太子を上古には日繼の御子と稱し奉りき、其は日神たる天照大神の御繼承に坐す皇子たる由にて、歴史にも天武天皇紀に、皇祖等之登極とある處に、古云日嗣也と註せられたり、推古天皇以來、漸く支那風を用ひさせ給ふ世となりてより、皇太子の號始り、(日本紀には神武天皇紀よりして立太子の文ありと雖ども、此は後の稱號を上代に及ぼして書るものなり、)天智天皇以來の法制に、皇太子の御所を東宮といふ、皇居の東に在る故の名なり、傅は道徳を以て東宮の輔導を掌り、(三公及び大納言の兼任たり)學士は經を執て奉説するを掌る、共に東宮に屬す、東宮の政務を行ふ所を春宮坊といふ、大夫亮、大進、少進、大屬、少屬等の官僚あり、(唐朝にて皇太子の政を行ふ所を、左春坊、右春坊、といふに擬せられたるものなり、)中古の昔に、皇太子に立給ふ事を立坊といひ、又物語の類に、坊定まるなどあるは此故なり、春宮坊の被管に、舍人監、主膳監、主藏監、主殿署、主書署、主漿署、主工署、主兵署、主馬署等の官ありしが、後世多くは廢せり、又帯刀といふは、舍人の内より武藝の勝れたる者を撰びて、東宮の護衛とせしものにて、源平の武士、相並びて朝家に仕へし頃、重代の者多く之れに補せり。

立太子の儀は、當日天皇紫宸殿に出御あり、武官階下の左右に陣列す、大臣少納言を以て群臣を召す、親王以下百官應じて參入す、五位以上は庭中に列立し、六位以下は承明門の外に在り、宣命の大夫版に就き、冊命の文を讀て曰く、現神止大八洲所知須、倭根子天皇我詔旨良万止勅命乎、親王諸王諸臣百官人等、天下公民衆聞食止宣、かく讀訖れば庭上の群臣共に唯と稱し、再拜し訖れは、大夫更に宣して曰く、隨法仁可有岐政止爲豆、某乎立豆皇太子止定賜布、故此状乎悟豆仕奉禮止詔布、天皇勅命乎衆聞食止宣、(孝徳天皇以來、詔勅の文は漢文なるも有れど、御即位立后立太子の如き大儀には、我が國の言詞を以て述たる宣命を讀ましめ給へるは、當時の

制度專ら唐風に倣はせ給ひながら、猶言詞を以て事を傳へたる、上古よりの風儀を守りて、一概に變革し給はざりし由を示さんとて、新儀式に據り全文を掲出せり、）訖て群臣共に唯と稱し再拜す、天皇淸涼殿に還御の後、大臣召に依て參上し、侍學士門下の官人を任ず、次に公卿相引て東宮に參賀す、饗宴あり、後日使を山陵に遣はされ、立太子の狀を告ぐ、以上は貞觀儀式、新儀式、江家次第等を斟酌して記せり。

中古以來皇太子を立らるれば、禁中より使を以て、壺切の御劍を護身として、東宮へ贈らるゝ儀を例とせり、此劍はもと太政大臣藤原基經公の物たりしを、延喜帝皇太子に座しゝ時奉りしより、歴世東宮の護劍となりし由あり、後火災に燒けしかども、中身は全かりしといへり、世俗淺深秘抄といふ書に、鞘は海藻を蒔繪したるに、龍の如き摺貝ありて、青滑革にて裝束したりとみゆ。

幼稚にして立給ひし皇太子は、七歳又八歳にして、御讀書始の儀あり、唐玄宗の御注孝經を讀ませ給ふを以て例とす、學士點圖、角筆、を調進す、（古への經書は白文の寫本なるにより、返點聯點切點及ひ四聲を送り假名の譜とを別紙に記し本文と見合せて讀む、これを點圖といふ、角筆は竹を用ゐて作る、爪しるしの具なり、後世にいふ字指も亦角筆の屬なり、）其圖文藝類纂にみゆ、）儀訖て饗宴あり、侍の催により、學士佳辰令月の句を朗詠するを例とす、公卿以下に祿を賜ふ。

御幼稚の皇太子は、十一歳より十五六歳までの間に、御元服の儀あり、紫宸殿にて行はる、天皇出御あり、加冠とて冠を加へ奉る者、（多くは大臣を用ふ）理髪とて童形の御髪を、成人の髪に結び改る者、（多くは大中納言を用ふ）先づ昇殿して事を行ふ、事訖て皇太子服を換へ、御前に進で舞踏し給ふ、親王公卿及び諸大夫（五位以上をいふ）參上昇殿す、饗宴あり、親王以下下殿し、献物を執て進る、庭上にて舞樂を奏す、其後親王公卿、各、管絃を奏す、祿を皇太子及び王卿に賜ふ。

大寶の制、天子巡行ある時は、皇太子留て守り給ふ、是を監國といふ、皇太子の命を令旨といひ、上申するを啓といふ。

皇太子の中にて、殊に勝れて賢明敏智にまし〳〵たるは、菟道稚郎子、廐戸皇子、中大兄皇子、（天智天皇）の三皇子なれば、此に其御事蹟の概畧を陳すべし。

菟道稚郎子は、應神天皇第六の皇子にまします、百濟人阿直岐王仁を師として、新に渡し來れる漢籍に具く通じ給ひ、數年ならずして、高麗王の上表に無禮の文ありしを見給ひて、

呵責し給ひき、故に父天皇鍾愛して日嗣の御子とし給ひしに崩御の後大鷦鷯皇子(仁德天皇)は、才德あり且つ年長にましませば、讓りて天位に即き給はず、大鷦鷯皇子も亦た先皇の敕旨に背くを以て、固辭して受給はず、空位三歲に及びたりき、皇太子皇兄の志の奪ひ難きを知り、自ら縊れて薨し給ひしにより、大鷦鷯皇子遂に日繼の位に即き給ひし御事跡は、衆人の良く知る所なり。

廐戶皇子は、用明天皇第一の皇子にましゝます、聰敏にして、十人の訴へを兼聽給ひつれど、錯ひ無かりければ、世に豐聰耳の皇子と申し、また皇居の南なる、上殿にましましければ、上宮の皇子とも申せり、聖德は時の人の尊みて稱する所とも、又は謚ともいふ、推古天皇(女帝なり)の朝に、皇太子にて攝政し給ひ、最も政治に心を用ひられ、始て冠位を制し、憲法を定め、衣冠より宮殿の製造に至るまで、改造し給へり、又始て隋國へ通信の使を遣され、學問のため僧徒を其國へ遣して、留學せしめたり、是れ甚佛法を信じ給ひし故にもあれど、鄰の大國と通交の始を起され、遂に孝德天皇の朝より、其文物制度を移されたる、基を開かれたりといふべし、又文筆に通じ給ひ、憲法の文、及び佛經の疏も、自ら作り給ひし物にして我國人の作れる漢文の世に顯れたる始也、只其逆臣馬子を誅し給はざりしにより、後世物議あるは遺憾の事なり。

中大兄皇子(天智天皇)は、舒明天皇第一の皇子にましゝます、皇太子に立給ひしかど、暫く御母皇極天皇御在位の間、逆臣入鹿を中臣の鎌足と謀りて天皇の御前にて誅戮し給ひし事は人の知る所なれば此に贅せず、さて其後も、天位を御弟孝德天皇に讓りて、猶皇太子にましまし、積年の時弊を改んとて維新の政を行ひ給ひし大畧を謂はゞ、まづ從來封建の制にて、國造、縣主、等が領し來れるを、郡縣に改めて國司、郡司、を置き、又族姓の政にて、大臣、大連、伴造等、が世職を以て治め來れるを廢し、新に八省百官を置て、人材登用の制に變へられ、口分田を立て租調庸の貢を定め、戶籍を製して浮浪人を收め、驛傳關塞を設けて、行旅と守衛とに便したる類は、皆李唐の制に據て、斟酌製作し給ひしものにして、專ら皇太子の輔弼と、鎌足の巧思に依て成れるものなり、孝德天皇崩御の後も、猶即位し給はず、御母齊明天皇重祚し給ひしは、皇太子にましゝます方、萬機を攝行し給ふに便なる故もあるべし、其後高御坐の天業を繼せ給ひし後も、法令を製し、學校を起させ給ふ等の美政多かりき、因て後世までも中興の英主

として、歷朝其山陵を尊崇あり。右に架たる制度儀式等は、皆往昔の舊事なるが、當今は自ら時勢に從て、變革あるべき事あれば、告朔の餼羊に類すれど、或は考古の參考ともあるべきかと、舊記より抄出するなり、さて嗚呼がましくはあれど、近日大典を行はせ給ふにより、宮內省の御歌所長より、菊契千秋といふ題にて、歌奉れと傳へ言ありければ、詠進したる蜂腰をもて、此段のとゞめとす。

千とせまで、み前にさけと菊の花、
　ことしの秋に、契りおかまし。

○理想的新日本

空想堂主人

吾人熟々當世人士の擧動を察するに一として金錢の爲めに拘束せられざる者なし彼の雄材大略なきが如き人士必ずしも雄材大略なきに非ず卓見高識なきが如き人士必ずしも卓見高識なきに非ず剛膽洪量なきが如き人士必ずしも剛膽洪量なきに非ず遠謀深慮なきが如き人士必ずしも遠謀深慮なきに非ず皆是れ情實の爲めに束縛せられ金錢の爲めに束縛せられて其言はんと欲する所を言ふこと能はざるのみ其行はんと欲する所を行ふこと能はざるのみ其才能を自由自在に發揮すること能はざるのみ其學術を自由自在に活用すること能はざるのみ嗚呼政事家を束縛し宗教家を束縛し學者を束縛し論客を束縛し凡て一世の人士を束縛して器械的と爲らしめ社會の元氣を萎靡せしめ活火を消滅せしむる者は金錢なる哉。蓋し革命時代の人士が擧動の放縱亂暴なるにも關せず其社會には一種新鮮の空氣滿溢して毫も腐敗の狀なきは一般の氣風質樸快活にして金錢の爲めに束縛せられざるに因る立派ある洋服なければ懇親會に列する能はずと云ふが如き若干の會費を出さゞれば會員たること能はずと云ふが如き若干の財產なければ國事を議する能はずと云ふが如き面倒ある制規なきに因る然るに天下漸く小康を得れば近視鈍眼の徒は忽ち太平を謳歌し頌德表を奉呈し奢侈を競ひ諂諛を喜び以て一日の安を苟もするを以て人心忽ち腐敗するなり嗚呼麥飯を食ひ味噌汁を啜りて遠慮會釋なく胸臆を攄ぶると西洋料理を食ひ咖啡を飲みて心に思ふ所を言ふこと能はず却て其思はざる所を述べ務て諂笑すると孰れか快なるや燒藷を食ひ山茶を飲みて天下の大勢を論じ古今の人物を評すると美菓を嘗め佳茗を賞して茶器に諛らひ扁額に諛らひ一軸の書畫に諛らひ庭園の梅花にまで諛らふと何れか快なるや必らず髮を櫛り必らず襟を整へて人を訪ひ恐る〳〵案內鈴を鳴して學僕の出で迎ふ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

るを待ち應接所に導かれて主人の來り面することを遲きが爲に欠伸し幾度か欠伸する間に英氣沮喪し或は途中にて考へ置きたる意見等を忘却し面談の際に狼狽して僅かに不調子なる數語を陳し悄然歸途に就くと蓬髮垢面を厭はず弊衣破帽を厭はず飄然人を訪ひ案内なくして主人の書齋に至り忽ち罵り忽ち笑ひ主人閑なれば通宵徹夜を厭はず主人多忙なれば匆々別を告ぐると孰れか快なるや。

吾人は沈思熟考する毎に銅臭を帶びたる交際の不愉快にして銅臭を帶びざる交際の快活なるを感じて止まず此社會をして生氣勃々活火炎々たらしむるは實に滿天下の人士をして金錢を輕んずる氣風を養はしむるに在りと信ずるなり吾人は決して正經なる貨殖家を賤む者に非ず實に不潔なる金錢を貪る者を惡むなり吾人常に以爲らく世人が財産を得るに汲々たる原因三ツあり一家の生計を高くせんと欲するなり其子を立派に教育せんと欲するなり撰擧權被撰擧權を得んと欲するなり此外に尚種々の原因あるべしと雖も先づ此三原因を主因として其他は大概これに附屬するものならんと信ず。

吾人が撰擧權被撰擧權に付ての意見は時務評論第二十二號の紙上に述たるを以て今再說せず、一家の生計を高くせんと欲し其子を立派に教育せんと欲する等の非なるとを辯ぜん。

一家の生計を高くせんと欲するが如きは實に是れ妄念の甚しき者なり生計の高下は比較的より起ることなれば自己が生計を高くしたると共に他人も亦生計を高くせば自ら高くしたりと思へるもの果して何處に在りや而して美衣美食も之に慣るれば其快を覺へず却て一方に於て或は情慾の繩に縛られ貪慾の刑に坐する如き精神的の苦痛に言ふに忍びざるものあり一家の生計を高くせんと欲するが如きは實に是妄念の甚しき者なり生計の高下と人物の高下と果して何の關係あらんや。

吾人は既に一家の生計を高くせんと欲することの非なるを辯ぜり而して吾人は更に一家を立つることの愚なるを辯ぜんとす凡て世人は一家を立て妻子と同居するが故に種々の無用なる虛禮虛飾虛儀式を要するなり從て無益の事に多くの金錢を費すなり是れ貪吝卑劣に陷るの始めなり獨立獨行を得ざる主因なり言はんと欲して言ふこと能はず行はんと欲して行ふことを能はざる主因なり世人若し一家を立つることを止め夫は一個男子の獨立を爲し妻は一個女子の獨立を爲し自己の財産は自己にて之を取り締り毫も他人をして手を觸れしめず而して從來の如く女子は人の妻と爲りたる時より直に夫の姓を稱す

る如きことなく夫妻の間に出來たる子に父の姓を冠する如きことなからしめば極めて快活なることとならん。

人或は曰く妻子同居するが故に情交親密にして和氣洋々たるなり若し互に離居すれば夫妻相疎んじ相疑ふに至らん且つ其の兒子は如何にして之を養育せんと欲するかと吾人謂らく是れ決して深く憂ふるに足らず夫妻同居するが故に往々風波を起すことあるなり若し之をして離居せしめば其相思ひ相慕ふこと終始渝らず其身體は別處に在て其心情は日夜相抱合し纏綿繾綣百年一日の如くならん而して其兒子は七歳まで其母之を養育し十四歳まで其父之を敎育し十五歳より社會に出でゝ獨立せしめ父母は毫も干渉せず唯時々之を呼び寄せて恩愛の涙を滴らし恩愛の接吻を爲し以て其兒子の好性情を涵養せば驕子とならず頑兒とならず其父母を慕ふこと愈切にして決して離畔する如きことなからん嗚呼是れ最も善美なる家族に非ずや有形的の家屋なしと雖も無形の一家として俯仰天地に耻づる所なきに非ずや。

世人が其子を立派に敎育せんとする目的は吾人も同感なれども其方法に至ては吾人が感服せざるもの十に八九あり世人多く其子を立派なる學校に入學せしめ博士學士等の肩書ある立派なる敎師に就き製本の美麗なる理論の高尚なる書籍を一冊も多く讀ましむれば立派なる人物となる如く心得居れり是れ大に誤れり此の如く記臆的器械的摸倣的空想的の學問を爲すは觀察的發明的企創的活動的の學問を爲すに及ばざること遠し而して觀察的發明的企創的活動的の學問は何々學校何々塾と云ふ如き學校に於て得べきに非ずして廣大無邊なる社會學校に於て得べきなり故に吾人は十四歳まで普通敎育を授けたらば十五歳より直に社會學校に入學せしめ月謝を出さず食料を出さずして自治的自活的の活學問を爲さしむべしと斷言するなり。

以上吾人が述ぶる所果して實行し得べきや否や吾人は之を實行したるにあらざるを以て之を審にせざるなり凡て新發明の理窟は空想の如く見へて案外實行し易きものあり又實行し得べきが如く見へて弊害多きに堪へざるものあり吾人は他日を待ちて右の意見を實行し弊害の起る所の處より改良を加へんと欲す。

吾人が理想的の新日本は右の如き家族を以て一國を立てんと欲するに在るなり然れども右の如き家族は吾人が將來に造らんと欲する所にして世人が今日より直に實行し得るや否や知

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

るべからざるを以て吾人は教育家に向つて今日の日本を改革し新鮮快活の空氣を充滿せしめんと欲す吾人は平生慶應義塾より出でたる人士が必ず慶應義塾風を帶び專門學校より出でたる人士が必ず專門學校風を帶び其他の諸學校と雖も皆此の如き弊を免れざるを痛歎するなり吾人謂らく是れ同主義同氣風の教師のみを用ゆるが故なり若し夫れ耶蘇教の信者をも用ひ佛教の信者をも用ひ漢學者をも國學者をも懐疑派哲學者をも斷定派哲學者をも悉皆網羅して教師と爲さば異主義相磨して一種新鮮の氣を學校内に充溢せしめ大に生徒の智識度量を開擴することとならん此の如くにして學校内に輕躁なる傲慢なる大膽なる少年を生じ偏人奇物生意氣者其他種々の不具者を生ずれば是れ一幅百醜圖には非ずして實に將來の日本國を富强ならしむるの元素なり是れ豈に小膽狹量近視偏見の徒と共に語るべけんや。

批評

(90) 東洋の婦女　一册百五十一頁巾本定價四十錢　發行所　東京神田小川町集成社

此書は植木枝盛氏が著作にして、元と一時に綴文成編したるにあらず、漸次に記述されし者の由なれども、著者元來胸中に此書を藏し、十餘年來熱心よ女性の爲めに辨論せられたる餘滴、凝つて本卷となりしと云ふ、故に其馳筆染紙の時は同じからずと雖ども、脉絡自から存して全書中に一貫せざるなし。第一篇を、首論及男尊女卑の狀態、男尊女卑の原因、男尊女卑の結果、匡救の策の四章に分ち、第二篇を、婚姻及び夫婦、婦女世間の交際、婦人女子の將來の三章に分ち、引證古今東西に渉つて博ろく、議論毫厘毛糸に至る迄て細かし、特に其舊弊を罵しり、人理に慷慨し、弱性保護の勇に奮ふ所ろ、文字活火あるが如し、蓋し君は女學上に於ける有功なる老友なり、吾れ女學雜誌未だ生れざるの前に於て、早く信切に女性の爲に辨論したるもの丶一人は即はち君にてあり、爾來君が女學論到る處ろに延々したるに、今や集まつて此一卷となる、斯道の爲に喜こぶべきと也。

卷初に十七淑女子の序文及箋牘を載せたり、姓名左の如し、

中島とし子。佐々城とよ壽（松島近傍の草庵よりとして）。清水豊子（西京）。濱田さよ（越后高田）。吉松ます（土佐）。千頭とし子。森岡かつ子（土佐）。河田さと子。大谷きよ子（土佐）。大伴せい子（浪華）。富永らく子。平井三千代子。素天女史中村とく（山形）。竹幽女史山崎竹。村雨のぶ子（三州豊橋）。

長崎京子。謊し幾上香閣を添えたるものか、必竟近來の好著也。

○篁村先生の「常世商人氣質」　其川子

總てが八文字屋振、常の篁村先生の文とは一段の相違なり。中の文章標題の好はさらなり廣告の文案も享保時代にして却て西洋がる今には珍らし。「右出版仕候」——是れ頗る面白し、余じくは「右本出し申候」とせば更に古くして更に妙なるべく。版元の二字も面白けれど既に新著百種にて用ひたれば ちと遅ればせの憾あり、是も‖金港堂版‖と改めば又妙ならんかとも思はる。序に‖御斷申ます‖と前書して‖各々樣‖と宛名すれば愈々妙ならんか。夫から‖東京本町‖を‖江都本町‖としたら……サアさふ云ふと限がないぞ、定價廿五錢も代銀四匁とせずばなるまい。‖全部五卷を合せて一部‖は敬服仕候。

是までも世の公認する處にて篁村先生と云へば讀まない中にまづ妙だと曰つて珍重がる、ダガ‖妙だ秀鄕だ‖などは豪氣に感動する洒落で此真面目な「商人氣質」には勿躰なさすぎる樣だ。一の卷第二に‖客と紙打をするがの通ひ‖云々はちと不似合な地口々調にて隨分ア、ンと云ひたくなる。篁村先生の瑕瑾は曰はゞ此調にて滿腔の洒落處きらはず筆端に迸ばしれば面白い事は面白いが出掛た涙が出損なつて思掛ない笑が出しや張る……それそこがいゝんだ、沈みすぎるは勞症の種なれば其結ぼれを解く處が妙——篁村先生の小說一讀效能神の如し。

と云つた處で先生の人情を描寫するに力を費さずして能く細微に及ぶは誰か敬服せざらんや。百十七頁に、

「(上略)豆腐屋は朝早く來る呼聲の長い人のを買ひなされ全じ直段で嵩が大きい味噌は此處等はすべて高ければ用の序に江戶向きの大問屋で少しづゝなりと買ひなされ何ぞ不自由な物があつたら遠慮なく私しの所へ云ふてよこされよ路次の溝板が一枚剝がれて居るに氣を付け玉へ(下略)」。

是等の句は先生獨得にてもし他をして叙せしめば恐らく長々しくだら〳〵とあき〳〵するほどならんに先生は極めて輕々に叙べ了りたるは最も恐ろしき筆力なり。わきて二十七頁に‖偖も味氣なき事を承はるものかなと仁助は萬助の顏をつく〴〵と打眺めながら膝を進ませ誠や鹿を逐ふ獵師は山を見ず‖云々とあるは西洋人の常に慣用する處にて此頃の言文一致家の較や摸倣し得て苦しむものなるに先生は平氣に用ひられ

たるを見て大に其自在に驚く。

千太郎と爲吉と其性質を寫し分けられたるは自然に人情の妙境を悟られたる者にて平手な心理小說家の及ぶ處にあらず、是も先生獨得の長處か。

壓卷は四の卷と覺ふ。されど此卷の主人公はお初なる女性にて商人氣質の名にはちと背く樣にも思はる。兎にかく姉妹の性質を各々異なる樣に寫されて其結果を描かれし妙は心理の奧を知る人ぞ知らん。ゴールドスミッスの著にプリムローズ一家を寫せし巧妙は歐洲の文學を聳動せしがそれにも優りて面白し。

爰に最も缺點とすべきは五卷の立案大抵全一規に陷りし事あり。千太郎は北海道に行きて松岡の娘を娶りて其力を借り爲吉は大阪に行きてお菊を娶り泉源の力を借り潜上云ひし獨身者はお初を娶り又兵衞の力を借り新吉はお辰を娶りて其内助を得たり、總ての主人公悉く婦人或は其親の力を借りて功を收むるに到つては大に面白からず、他に今少しの工夫もありさふなもの。

兎もあれ比類なき傑作、わきて四の卷は無類の上出來、篁村先生作中第一と云ふべし。

○石點頭氏の「きむすこ」　　ふ、　ち、

櫻痴居士の「もしや草紙」以來の作とある人申したり。不思議なる上出來、高聲讀上ればひとしほ興ある事と存ず。

最もわが氣に入りしは女人禁制の四字及び紅葉山人の序文中＝（此年男旱魃女の淫髪山の如し）＝と好色年代記にかゝれん事よもや疑ひあるべからず＝の一句なり。本文はいづれも玉をもあざむく文字にて議論の奇警なるは誠に面白かるべし。扉の奇麗事は殊の外の愛敬、兎にかく讀んとする人は讀て見るべし、讀て見たらば何か發明する事あるべし、發明する事あらば即ち此書の妙は極まれり、是に於てか絶世の奇作と都門文學社會の評判嘖々たらん事……キット開ちがひなかるべし。

雜錄

○美貌と面骨　　みどり

幾多の議論を聞けど、左程に感ぜず、若し夫れ議すでに成り、人物儼然として現はれ、山水在るが如くに見ゆるときは、感歎措く能はず。嗚呼道德の議論を聞くと、實行を目擊するとの差ひ如此し、高論を聞くと、風采に接するとの差ひ如此し、聖經を讀むと、基督を見るとの差ひ如此し。

○我れ畫人たらん　　しのぶ

山を畫けるに臨めば、山高く、木深く、鳥飛ぶ、夕日正に沒して、天甚はだ紅し。川を畫けるに臨めば、水洋々、細石磊々、魚躍り、虫群がり、朝日映じて霧半ば去れり。花を畫けるに臨めば、瓣開き、香散り、蝶舞ひ、蜂働らく、滿目紅々白々、馥薰天の如し。月を畫けるに臨めば、雲開らき、雨氣降り、滿界漠として一輪を見る、雁遙かに下天に遊び、富岳足下に立つ。人を畫けるに臨めば、莞爾として笑めるあり、和然として遊ぶあり、憤乎戰わんとするあり、靜寂讀書するあり、笠を冠むつて耕やすあり、岸頭に釣するあり、伉儷伴行し愛兒二人戯むるゝあり、或は古聖賢人眉目を開らきて立ち、義士正者襟を合せて坐す。吾人此等の畫を見て、肅然として歎ず、嗚呼我れ畫家とならん、畫家とならん、畫の人を化する何んぞ夫れ如此きや。

○一の小天地　　かすみ

文章の極めて器械的なる、議論の乾燥窮屈なる、言論の激烈無文なる、交際の粗野暴慢なる、皆な樂しむに足らず、人世止むを得ずして議論生じ、分析起る、然れども人間の要素と、信ずべく、直覺すべく、總觀すべきもの也。畫家は是れ一天地を開らひて、人の眞情に訴ふるもの歟、女子が其仁性を現わすの具、蓋し之より善なるは尠なし。

○スコットの勸學時間　　十一寸月人

人若し學問に熟達せんとせば、恐らくは是が爲めに適用する刻限を定むること程大切なるものはあらざるべし、古往より有名なる學者は、皆能く此點に注意したれば、常に爽快なる精神を以て十分に學業を攻究し得たるのみならず、一日の中幾多の時間を餘し、散步遊戯に、疲勞せる腦髓を安慰することを得たるなり。今ロックハルトが、スコットの傳なりと謂を聞くに、スコットは毎朝必らず五時に起床し、先づ洗面剃髭、粉粧を尤も規則通りに履行し、夫より散亂せる書籍を集め、要書は卓上に排列し、參考書は床上に並ね、而して後ち案に對す、此時通例六時なり、家族の食堂に集會するは九時より十時迄なれば、其間凡そ四時間は、一日中にて氏が尤も勵精苦學する貴重なる時なりと云ふ、食後直ちに書齋へ返り、猶ほ二時間を學び、十二時に至つて讀書を止む、此故に午后來客あれども、毫も差支ゆることなく、愉快に閑話せり、若し來訪するものなければ、大抵午后一時頃より馬上遠行を爲す、然れども霖雨數日に亘り、一室に拮据勉學するときは、快晴を俟て必らず

午前十時より近村を閒游して、鬱散を爲せりと云ふ。

○接吻　冷々子

夫婦年齡の懸隔は大抵五六年あるを通例とせるが、歐米人には往々祖父孫女に髣髴たる緣組を結ぶものあり、是蓋し双方の利己主義より起るものにして、夫は之に據て壽命を伸し、妻は夫の死沒を奇貨として其財産を所領せんと謀に因ると云ふ。フイッツプ、スイクチスは、多病者の手引と云へる書物の著者なるが、自ら人に語つて曰く、余は少壯より、痛く身心を勞し、且氣候溫度の劇變ある地方に寄寓せると屢々なりしが、今六十餘の高齡に達るも、猶尋常四十歲の人の如く體軀壯健なるは、全く年少婦女の呼息を吸ひたる高庇あるべし。冷々子謂へらく、歐米男子の妄りに接吻するは、此理にて、女子の生血を啜つて只壽命を貪ぼるならんのみ。

○子なきの歎　山下石翁

兎角學者英傑には子供なきやうなり、又偶ま之れありとも親の如くに立派なる人物とはならぬやうなり。古し孔子、釋迦、ソクラット、プラトー、アリストートル、シエクスピア、ミルトン、バッフホン、キウビーア等の聖人、學者、君子多かりしが、何れも其英才を子に傳ふるとなし、ガルトンと云へる學者は卓人が遺傳の有無を取調べたる人なるが、一千四百五十三年より一千八百五十三年に至る四百年間に於て、著名なる偉人を算へて六百五人を得、此人々が血統の上に於て互ひに關係ありやと吟味したるに、其中一百二人丈を除けば全く無關係なりと分りぬ、即はち多くの偉人が其才能を子孫近族に傳へざりしと云ふの證據明白となれり。

斯く其才能を傳へざる迄も、若し子あらば幾分かの樂しみなるに、多くの偉人には反つて子供すら無きやうなり、此事に付ては吾國近世の學者に於て殊に甚はだしきを覺ゆ、例へば徂徠は姪を養ひ、春台は他姓を子とし、東野南亭も子なく、徂徠門下の傑出の中にて嗣ありし人は僅かに、山縣忠助、平野金華の二人に限り、仁齋が門人某、及び山崎闇齋、及び其門下の秀才皆な其嗣の絶るを見て論を著わしたれども、現に其人に子なかりしと云へり、實に闇齋及び、其門人淺見安正、佐藤直方、三宅重固、遊佐木齋、など皆な嗣なし、夫故へ遂に醫者一代、儒者二代なしの諺すらあるに至れり。

學者英傑は何如にエラクなるとも、多くは其才能を子に傳ふるとを得ず、實に子に傳ふるとを得ざるのみか、其子すらなきが多しと云へば、學者英傑は實に不幸なるものにあらずや。

成程一見すれば、不幸なるが如し、然し其實子なく、又は實子に傳へざる代りに、更に幾層倍の子の如きものあり、孔子は三千人の弟子あり、ソクラット、カントは數万人、數十万人の弟子あり、此等の弟子は皆な先師を父の如く、神の如くに敬愛し、一生を通じて皆な子の如くに仕へたり、然らば學者英傑は血統に於て子なしと云へども感化の上に於て幾百千万の子ありと云ふべし、之れ大なる幸福にあらずや。

○日本最上小説十種　さ み 子

「いらつめ」二十八號に淑女方より投票したる小説を擧げられたるが日本小説を充分玩味せられざる方々と見へて書目も大に珍らかならず覺ふ、その雜誌記者の言にては今に限られざるに古人には京傳の稻妻表紙の外はなきこそ心得ぬ事なれ。妾五歳の時母の膝にありて桃太郎の繪解を聞しより今日まで十數年一日だに小説を離す事なく、嗜好に投ぜしは再三繰返せしもあるが大に古人の作に滿足せしもあれば試に妾が最も愛讀する小説十種を擧げん。

好色一代男　井原西鶴
傾城禁短氣　江島其磧
きぬぶるひ　山東京傳
お千代傳　風來山人
大悲の千祿本　芝全交
三教色　唐來三和
娘節用　曲山人
弓張月　曲亭馬琴
浮世風呂　式亭三馬
田舎源氏　柳亭種彦

以上は妾のふるひつきしものなり。其他にもあれど是れだけは日本小説の極粹かとも考へらる。もし今の小説に於て云へば左の十種ならんか。

細君　春の屋先生
浮雲　二葉亭先生
初戀　嵯峨の屋先生
風雅娘　紅葉先生
いちご姫　美妙先生
風柳佛　露伴先生
魂膽　篁村先生
外務大臣　共醉先生
犬枕　紅葉先生
くされ玉子　嵯峨の屋先生

右はいづれも優り劣りなき名作ならんかと思はる。是れほどのもの今の世に出でんとは思もよらぬ事にて常々今人古人に及ばずと罵りし二三年も思出されて恥かしく覺へし時もありき。

原文は深く味ひ申さねど飜譯にては二葉亭先生の「めぐりあひ」こそ傑出のものならめ。ベルチの理學的小説は大に好もしからねど思軒先生の「鉄世界」ばかりは面白く讀みたり。

西鶴の一代男は此頃讀みたるものなれど是は又云ふに云はれぬ妙味ありて其碩の比にはあらず、中々に凡常の心もて評すべきものにあらず。

日本にて小說と云へば文化文政以後に限るやふなれどそれより前の小說にすぐるゝものあるをなべての人大かたは名を聞てあきるゝこそ哀しむべき事なれ。心ある方は深く文化文政前の文學を味ひ玉へ、必ずや思ひ半ばに過ぎん。

右「いらつめ」の最上小說十種を讀み古人を知らざる方々多きを深く怪みて妾が最も愛好するを舉げて貴社に投ずる事となりぬ、もし餘白を惠み給はゞ望外の幸ひに御坐候

麻布　とみ子

女學雜誌主筆樣

○談話の珠、三點

○仲悪るき夫婦　昔しヂウヰツヒと云へる國の律法として、凡そ仲悪るき夫婦が離緣せんことを申出るときは、奉行たるもの直ちに之を聞届くることを爲さず、先づ之を三日間一室内に一處に閉ぢ込め、一つの寢床、一つのテーブル、一つの皿、一つのコップにて住ましめ、食物は穴より入れて餘人は一切口を聞かず、斯て三日立ちしのち召出し更めて問質し、尚ほ離緣したき樣申せば則はち許せしとなり。

○一見して知緣　日耳曼國有名の記者ジャン、スチルリングは中々緣事などに頓着せぬ方の人なりしが、或る時人集れる集會に於て偶と一人の娘を見付け、俄かに熱心になりて最と眞率に申しけるは、多くの女性ありと云へど余は卿こそ吾が永遠の妻たることに定められたりと確信しぬ、故に余が願ひを承諾し玉へと云へり、娘は甚はだ耻らい赤面したるが、又申けるは、妾も亦何故か左樣に思はれ侍ると……斯て黃道吉日とあり、婚事目出度すみ、類ひ稀れなる仲好き伉儷となりぬ。

○會堂に睡る妻　蘇格蘭の或る教會に一個の牧師ありけり、說教中途にして、満坐の中に痛く其妻を呵責せしとありと云ふ事理を尋ぬるに、當日牧師は高壇より熱心ある教理を吐きければ、聽者寂然として皆耳を傾け居たりしが、前面の椅子に腰掛けたるもの、頻りに頭を前后に動搖するは、說教に感服するものゝ首肯する狀と甚だ異なる所あれば、隣席の一人是を熟視するに、豈計らんや、其首肯するものは了得を示すものにあらずして、夜舟の稽古にてありけり、俯俛して忍はず噴出しけり、牧師は是を視て色悦びず、直ちに說教を中止して、懶夫を喚醒し、責めて曰けるは……ロブソン。汝は不敬にも聖堂を穢したり、聖堂は寢室に非ざるなり……。ロブソン漸やく首を擡げ、牧師の傍を指して、……眠りたるものは余のみならず、君の右傍に今仍ほ熟睡せる婦人あり。茲に於て牧師は不審ながら之を見るに、全たく己れが妻にてありければ、愕然として色を失ひ、再びロブソンに對つて……、然らばロブソン、汝復吾妻の睡れるを見ば、手を擧げて余に知らすべし、斯く言て說教を始めけるが、未だ十分も經ざるに、ロブソンの右手は徐かに擧りければ、牧師は直ちに其妻を顧るに、不幸なる哉復無遠慮にて熟眠せしかば、今は耐へ兼ね、耻入る妻を立たしめて、左の顛狀を申渡したり。

嗟呼吾妻……余が昔婚を御身に求めたるは、決して御身が美貌あるに因らざりしなり、而るに今御身にして斯く冷凍せる信仰を持ち、家主の顏に泥を塗らば、余は神の厚惠を蒙らず却つて無用無値なる贄物を得たると知れ。

○雨と林との關係に就て

中央氣象臺　馬場信倫

女學雜誌第百八十三號及百八十四號に、雨と林との關係に就て甚面白き説明を載せられたり。然るに其記事中の一二は、余の考説に適合せざるものあり、乃ち木々の葉莢大にして其數數十万あること故、降り掛る雨の點滴は其表裏に留り容易に落ることなし、其一證を舉くれば、雨降るのみにて大水は出でれど、雨と共に風あれば直に大水となるに由りて知るべしとあり。此說少々疑はしき所あり、樹葉に降雨水の幾分かを附着するとは素より事實なる可けれども、其點滴の風に吹落されて大水となるとは、幾受取り難し、一滴の水も多く溜りて池をなすとは世の諺に言ふ所なれども、今日前に其事實は見難かるべし、如何に數万の木葉に止まる水滴なりとも、之を振り落せば忽然として山家を崩潰すべき洪水となることは豈之れあらざるべし、况んや風と共に降雨するときは、雨滴の木葉に止まるの暇なきに於てをや、若し之を然りとせば、森林は洪水の汎濫の調和をなすものに非らずして却て恐るべき媒介者ならずや、嘗に降雨の際のみならず夜間乾濕の度を同ふし、濕度稍々飽和に近接せんとする時に於て、恰も蒼空雲なく、木葉又微動をもなさゝる平穩の場合にありては、結露の夥多あると天候の常態なりとす。且や草木は放熱著きが故、殊に結露甚しく、水滴又流るゝが如し、殆んど大雨ありたるかと疑はるゝ現象を呈すると、春夏秋の季候に於て間々あるとなれば、此現象後、偶々風を起し、樹木の枝幹動搖するとあらば、記者が云ふが如く大水の出でざるも忽ちにして河水奔流し沿川の居民が勞後の夢を覺破さるゝと又屢々なりしが、嗚呼危ふしと云ふべし。然れども天道は幸にも吾人の住土に斯る危險を加へざるは、豈幸福ならずや、要するに森林の能く洪水の汎濫を調和するとは、記者の精細なる説明の如しと雖、林の爲に降雨量を增加し、又降雨は林よりすると云ふ說に至りては、余の同意を表する能はざる所なりとす。我日本に於て未だ斯る事例を實驗せざる而已ならず、歐米の氣象學者も未た探究の及はざる所にして、嘗て千數年の氣象觀測を以て、林と裸地との關係を穿鑿したるも、滿足なる財料を發見し得ざりし也。蓋雨は上層に於て充分に濕氣を含有したる空氣が、寒冷なる空氣に觸れて其溫度を急變し、濕度飽和して雲霧となり、再變して水滴となり、下層地表面に降下し來る現象に外ならず、未だ必らずしも林より始まると云ふ可らず。且記者說明の末段に、本年の大水の大元因は、近年山林を濫伐して、林と雨との平均を失はしめたるが爲かと思ると云へり。之れ又余の說を異にする點なりとす、余の所見に依れば、我日本の河川は、一日百佛厘以上の雨量を其水源の山邊に降すに非らざれば、決して漲溢の憂なきものとす、木曾川の如き、信濃川の如き、皆然りとす、然れども各地氣象の通常小變化即尋常の天氣の變りより來る降雨は、一日百佛厘に逹すると鮮る稀有の現象なるが故、單純なる降雨のみより洪水となることは、先通例の變候によりて來ることなし、氣壓非常に低度を致し、其高低の部位徐に移動し、若しくは靜止するが如くにして、永く低氣壓の留止するが爲め、霖雨打續くか、或は南米邊より逍來する暴風雨の持來す所の强雨は、百佛厘に逹すると間々あるのみならず、八月、九月、十月の間に來る所謂大風の如きは、常に莫大の雨量を降すものにして、我日本に於て特に洪水の爲に最も恐るべき氣變なり、此雨量は暴風の經過中、二百佛厘にも逹するとあり、本年八月十八日より廿一日に至る暴風の際、富士山頂上に七百九十二佛厘の非常なる雨量を降したり、此實況は雨滴を降すに非らずして、寧ろ雨條の山頂を壓するが如く、恰も無數の蒸滊ポンプを天際に裝置して一途に下界を注射するが如くなりし。又九月十一日の暴風は、尙一層の猛勢を加へたり、斯る雨勢を以て山の四面を洗滌し、更に激憤して河川に逆奔するや、其莫大の水量と强暴の水勢とに向て、何物か能く之れを支ふるの力あらんや、宜なる哉、貴重の財產と人命も瞬時にして掃蕩し去るに至る、豈恐れざる可けんや。近年に於ける僅々たる山林の伐栽は、斯る氣變の猛勢に比例して何程の調和不調和の相違あるものぞ、眞に九牛の一毛たる、山林の伐倒は本年の洪水を引起したりとなす能はず。况んや勢三遠の三州の如きは、一府津浪の爲其災害を加へたりと云ふに於てをや。又况んや此濫伐は山林局の注意周到なるあるに於てをや。津浪は暴風の中心の經過に際し、七百三十四佛厘の低氣壓の爲に、高浪を誘起せしに原因す、故に我國の出水は、僅々たる森林伐栽の爲に非らずして、多く暴風の氣變に由來すと斷言すへし。

某申す。此の寄書に由て、本年の大水に關はる更に幾多の大元因を知るを得たるを謝す、左れど樹葉と降雨、及び山林と降雨との關係甚はだ之なきやの申條には些さか服する能わず。一木の葉數十万、之を擴延すれば一マイル四方とも爲るべしなど植物學者は申せり、たとひ風にて吹落すにせよ、葉面を潤ほす丈けの量隨分多額と思はる。又山林と降雨との關係に付ては、彼の蕃山翁すら辨論したり、雲冷へて雨となるは勿論なれども、山は即はち尤も雲に接近したる處にて、且つ林は甚はだ冷氣多きものなり、故に多く山林の邊より降雨するを以て當然の理と考ふ。左れば寄書者の說を信ずると同時に、亦た前の愚說を弁ずるもの也。

○文學上の符號

藤の屋

……或は——等の符號を文章に用ふる事極めて近年の發明にて從來の文學をのみ研究せらるゝ方々は口を極めて其無用を喋々せらるれど文字を活動せしむるに實際大効力あるは爭はれざる說なり。極端に論ずれば各々擯するは止むを得ざる事ながら日本の詩文に符號なしとて新たに符號を用ふるを難ずるは理由なき說と云ふべし。數年前外山博士が假名の會總會にて假名の利を演述せられし時世人誰しも＝し……る……こ＝と讀みて汁粉と知り、＝き……そ……ば＝と讀みて生蕎麥と悟るものなしと曰はれしが是等の簡單なる言葉は云ふまでもなけれど、もし押廣めて數百言に到る時は誰しも頗る煩雜に覺ふるなるべし。既に此弊を脫せんとて日本にても、○等の句讀を用ひたるを見れば他の……又は——等も必ず無用なりと云ふを得んや。此頃「文庫」に紅葉山人記號の解釋を載せられたるが余も其尾につきて記號使用の實例を擧げん。

古詩　無名氏

迢迢！牽牛星！　皎々！河漢女！
纖纖擢——素手。　札々弄——機杼。
終日……不成章。　涕泣零如雨。
河漢淸——且淺。　相去復幾許。
盈々……一水間。　默々……不成語。

春桂問答　王維

問春桂、＝桃李正芳華、年光隨處滿、何事——獨無花？＝
春桂答、＝春華……詎幾久？　風霜搖落時、獨秀……君知不？＝

憶友　李白

秋風淸！　秋月明！　落葉聚……復散、寒鴉棲……復驚。
相思、相見……知何日？　此日——此夜、……難爲情。

其他詩賦類は總て符號を用ひずんば妙味を解しがたし、畢竟日本にて是まで符號を用ひざりしは未だ文學の進步せざりし故にして折角使用を試みんとする人ある今日に是が無用を論じて罵辱するは文學の惡魔と云ふべし。總て事は極端に走り易き故、符號の必要を悟ると共に是を濫用するは免かれざる事實にして活版屋に常備の符號不足して新鑄せしなどの奇聞も少なからねど、一二の濫用家を標準として無用を說くは理由なきの言なり。詩文は辭達するのみにては面白味少くもなく、申さば圓朝の落語を筆記せし樣にて更に甲斐あらんや。餘情食蓄等は文學の極粹にて是等の妙巧を顯はさんには焉ん

ぞ符號なくして充全なるを得んや。さる故むかしの文章——中にも元祿前後の俳文は日本文學の極粹なれども讀馴れし人は兎にかく通例の物語派又は稗史流の迷信家には充分に其妙を悟る事難からん、見れミルトン、ウオルヅウオルス等の詩の符號を抹殺せしに全じけれバなり。高祖の「大風歌」に＝大風起兮雲飛揚＝とあり、是を＝大風起つて雲飛揚す＝と訓ずれど余は大に語勢を損ずと考ふ、もし＝大風起兮！　雲飛揚！　＝とせば大に强からんか。是と全じ例にて朗詠にある源順の句を＝楊貴妃歸……唐帝思！　李夫人去……漢皇悄！＝と符號を用ふれば大に妙なり。西洋の文學を味はざる人は日本に符號を用ひざりしを見て今の文章を怪めどもなくてかなはぬは次を見ても知れ。

神無月ふりみ……ふらずみ定めなき時雨ぞ——冬のはじめなりける　　貫之

あのくたら三藐三菩提の佛たち！　我立杣に……冥加あらせたまへ！　　傳敎大師

梅柳、さぞ若衆かな——女かな　　作者不知

なべて世に櫻がさかず……下戸ならば　　西鶴

子供等よ、梅折のこせ！　牛の鞭　　芭蕉

和歌俳諧すら斯の如くなり、まいて文章に於ては大に符號の用ふべきを見る。

憐捨子辭　　芭蕉

駿河の國富士川のほとりを、三ッばかりなる捨子のあはれげに泣くなり。いざや、此川の早瀬にかけて浮世の波をしのぶにたへず、露ばかりの命……まつ間とて、すてられけむ。小萩が本の秋風も……今宵やちらん、明日やしほれん……と喰物なげて通るに、

猿を聞人！　捨子に秋の風いかに？

いかにぞや？　汝は父ににくまれたるか？　汝は母に疎まれたるか？　父は汝をにくむにあらず、母は汝を疎むにあらず。唯これ天にして、汝が性の……つたなきをなけよ！

又俗曲に於て見るも、

よしやわざくれ身は朝貌のひかげまつまの花の色うらみられしも——うらみし人も、共にきえゆく……野邊の露！

（加賀節）

右の外總て符號を要せざるは少なし、符號は見馴れぬ目より見れば最も不思議なれども實際活用すれば大効力を有するものなり。今の小說家——就中言文一致家の使用せし符號は悉

く効を奏せしものと云ふ能はず、随分濫用を免かれざればなり。余の記臆する處にて紅葉山人が「色懺悔」中に燈火の風に亂るゝを記して＝明……滅＝とせしは大に符號の巧妙を悉して一瞥其さま目にさへぎる様に覺ふ。符號は無用にあらず、濫用は元より願はしからねど是を無用なりと罵る人あるところ心得ぬ事なり。

○俳諧を振ひし人、俳諧を滅せし人　　ふ、ち、

俳諧は伊勢の守武に初まれり、宗鑑貞徳に傳はり漸く盛んなりしが宗因の談林派粧飾に失して弊を極めり。是を救ひて一新を開きしは芭蕉にして絶代不思議の偉人なるが……「古池や蛙飛込む水の音」の奥義は終に斷並に失して今日正風の無味さなれり。俳諧を振ひし人即ち俳諧を滅せし人ならんか非か。

○蕉門の二大家は俳諧壇の惡冤　　ふ、ち、

芭蕉か門に游びて出藍の譽ありしは其角さ嵐雪なり。一は神巧に失し一は醇雅に失したり。神巧は終に狂調さ變じ醇雅は終に無味さなる。子考去來其間にたちてよく其風を傳ふるものなし、噫。

小説

すみれ

若松しづ

第三回　莟のとき

編者云く、若松女史多病の中に此物語四篇を慰さみの爲め作られしよし、然るに此週又々病重りて校正出來がたければ一回休まるゝ趣き、殘り惜しければ代りて斷はり申す。

寄書

○女子之服裝

在米國　花の家中原

抑も米國に婦人問題の興りたるは今より凡そ二十余年の事にして、當時は男子間の議論甚しかりしが如くなるが十年以來女子自ら其任に當て働く者現はれ今日に至つては大に婦人社會の面目を一新したり、然れども常時より四五年前迄の彼等婦人が爲したる働きは重に高尚なる教育を受くると、徳行を強保すると、及び政治上に女權を及ぼすとに最も熱心に盡力したる如くなるが四五年以來は漸く倒の實着を來たして、社會改良、婦人事業等に轉じたるが、今日は既に婦人服裝改良の問題現れ來て「ドレス、クラッブ」と云へる者興るに至り、左の文章は或る少女が米國衛生雜誌に投ぜられたるものなるが、今日衣服改良の一般を知るに足れば譯して諸姉妹に示す。

婦人服裝の一問題は數年間、社會に痛心を與へたる一個にして如何なる婦人と雖も種々に苦慮したる所なるがアンチズ、ミラー女史は近頃美事にして雅致ある、若かも簡略にして健康に適したる一個の改良服を考へ出せしと云へり。女服の改良元より今日の婦人社會に適するや否やは、未だ審にする能はずと雖も勢ひ今日は多少の改良を加へざる可らざるは明なり、試に今、我等女子を廣き壇上に立たしめよ、改良すべき所必ず多からん、然り多し、然れども最も初に取捨つ可きは(Corset)なり如何となれば女子の病苦、是に原因する者最も多しと云へり、若し多くの婦人、是を取捨んと欲せば元よりなすを得べし、誰か非なりと云ふ者あらんや、宜しく哀れなる少なき胴を快寛に保つべし然して可成短き衣服を着すべし、決して坐敷や道路を裾にて掃除するには及ばざるなり。女子の衣服は凡て上下一連に仕立て肩にて支ゆる方好し－ラッパー或は日本服の如く）下着も又斯の如きを好しとす、然して煖温なる靴下、快よき卑き踵の靴等又健康を保護する最も必要なり。

米國婦人が外國婦人に比して柔弱なるは決して驚く可きとにあらず、如何となれば米國婦人の過半は健康に關したる衣服の研究に注意すると甚だ少なし、腰に一片のフランネルを纏ふとなく、直にコルセットにて締括し、長き、重きスカートを肩にて支へずして、腰邊に厳しく締め付けて、野上高く燈灯の如さき(Bustle)を置くが爲め増々重量を加へて、身躰の伸縮自由ならず兩手を頭上に伸さんとして能はず兩靴を自身に着かんとして屈かむとを得ず歩行も又甚だ不自由なるが故に愛する良人と或る隔りを散歩するも中々快愉なるとに非らず、我愛する姉妹よ姉妹は我か米國を愛せざるが、米國の未來を念ぜざるか、米國未來を形造るものは今日の米國婦人より出るとを知らざるや、一少婦ありし鮮美にして才能もあり能く社會の事情にも通じて巳自身にも多少、注意を施せしたるが、然れ共何故に活

殊に立働くとの出來ざるやを自身に理解する能はざりし、勿論少婦ハコルセットを常に着するが故に、細腰自ら働きに耐へず加之身姿（ミナリ）を形る爲め寒天に短き袖、低き襟の下衣（アンダーウエヤー）を着し、フランネルさては數年の間着せざるが爲め常に風邪に見舞はれ安く神魂常に壯快ならざる故快く立働くとの出來ざるなり、少婦の母親は肺症にて死せり、他家族も又類似の病に罹りたる者ありし少女は注意を怠る可らざるなり。

他に有名なる歌女（シンガアー）ありしが常に咽喉を痛めて苦しみ是れが爲め二三週の間、藝を演する能はず、家に在て養生を勉むと雖も、病癒へて再び演藝の場合に於て直に温かきフランネルを去てDecolette Dress（デコレッテー ドレス）（宴會杯に着する女服にして日本にて女禮服と云へる胸、腕等躰の殆んど上部を露はしたるものなり）を着するが爲め再び病に犯され三たび四たび愈身躰の柔弱を致せり。

右はコルセット及びデコレッテー服の年少女子に及ぼす結果の一例を示したるなり、然れども年少女子のみ獨り恐なりと云ふ可らず、彼等の母親たる者常に是が例を示し、又甚だ不注意に着服するを許すを如何せん。

又年若き女子の内には足の大きく見へるを避けん爲め、雪、雨天の時と雖も雨靴（ラッバーシユース）又上靴（オバーシユース）なしに外出するとあり、是れ病症の大なる基原（コウス）なるとあり、足に濕氣を受くると元より恐るし、然れども尚ほ遙かに冷氣を感するを甚だ宜しからず。

按て余をして若し今日、假りに男子たらしめば、コルセットを鉄め、踵の高き少さき靴を穿き及びデコレッテー服を着するが如き一般の健康に不注意の婦人を一切娶らざるとなるべし、然れども多くの婦人は思へり、若し或る婦人等がなす如く我等も裝ふたらんには男子の意に適するならんと、然れども如斯きハ或る一部の男子ハイザ知らず、思慮あるものハ返てせずもがなと思ふと明なり。

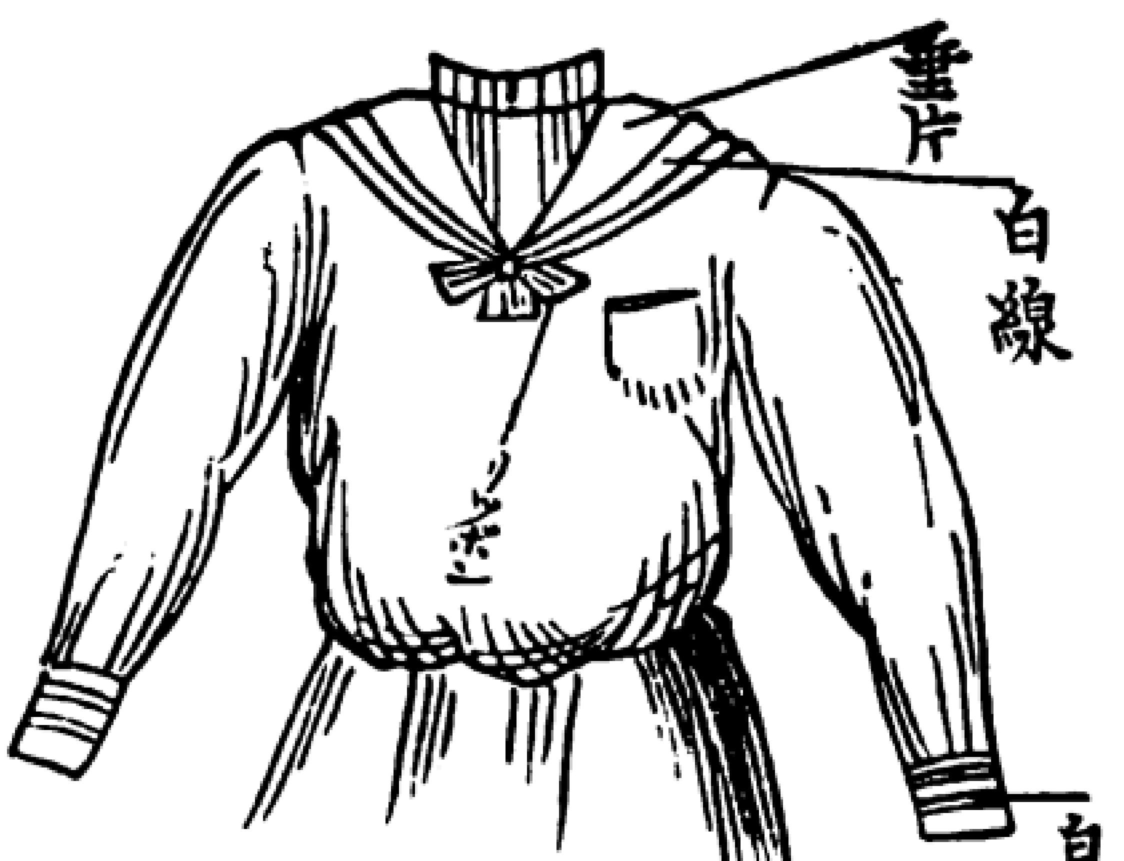
嗚呼我愛する米國婦人よ、我等ハ眞の婦人たるを望むなり、決して慣習の奴、流行の婢たるを希ハざるなり、我等の天父の惠送（ギフト）したる健康を私に取扱ふ可きに非らず、靈魂と肉躰を健康に保つハ我等の大なる義務なり。

嗚呼諸姉妹よ、姉妹ハ、スウザン、ビー、アントニー、フランシス、ウ井ラードの諸女史が風流女史（フエシヨナーブル、ウ井メン）がなす如く服裝しつゝありしならば彼等の事業を成功し得しと思はるゝや若し我等が健康に注意せずにあらんには我等女性（フエメール）の事業家は何處に現はれんや我等ハ宜しく簡略にして健康に適したる服裝をなすにあらずんば、此の一大世界に横はつたる我等の事業を成功し能はざるなり。

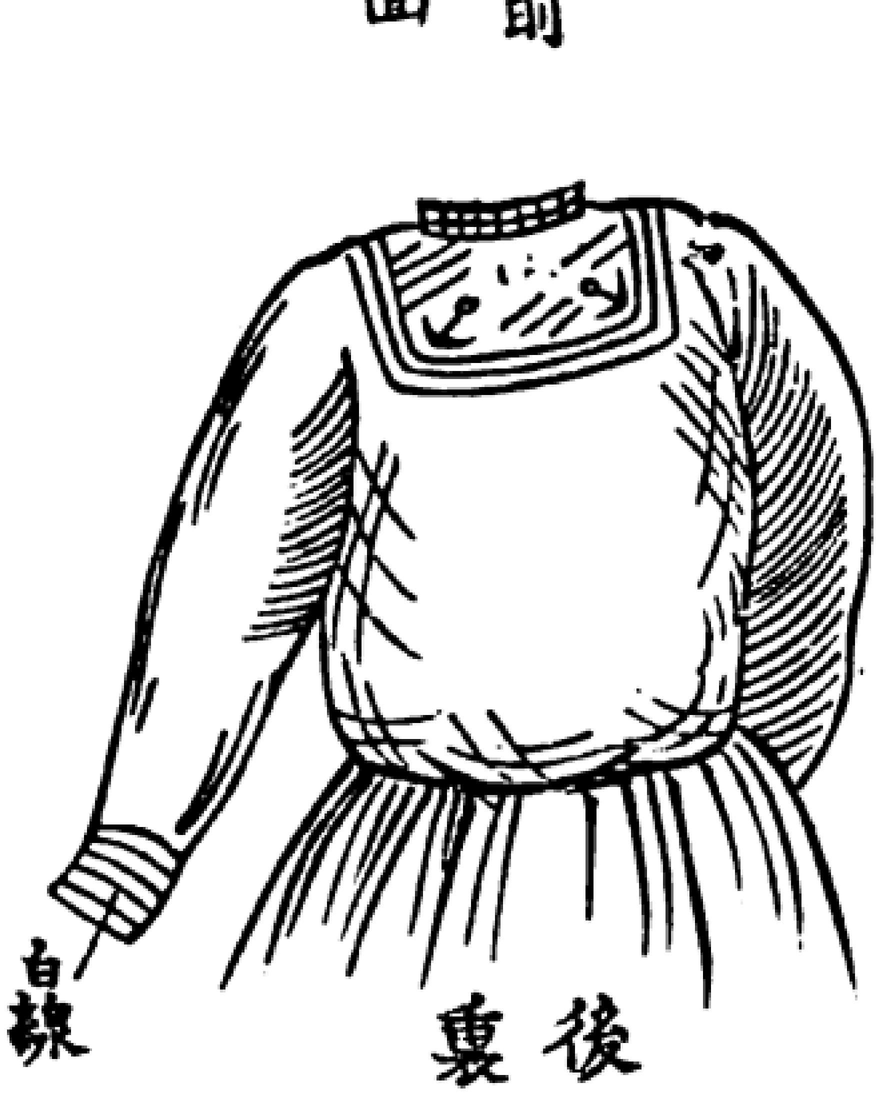
嗚呼米國婦人ハ既に衣服改良に着手したり、遠からずして好結果を示すなるべし我日本婦人も今や長袖、重裾、不活潑なる衣服を去つて改良を計らんとすと聞けり、宜しく衛生と、社會の實際と、及び事務を取るに便利なる者を案出すべきなり。

因に記す、近頃米國に一種の衛生服、流行し初めぬ、上衣（コート）の形ち水夫の服（ジャケツ）に似て胸邊少しく異なれり、胴大きくコルセットを用ゆるに及ばず袴（スカート）も甚だ簡略に

左なるハ新流行服の略圖なり改良の參考にもと

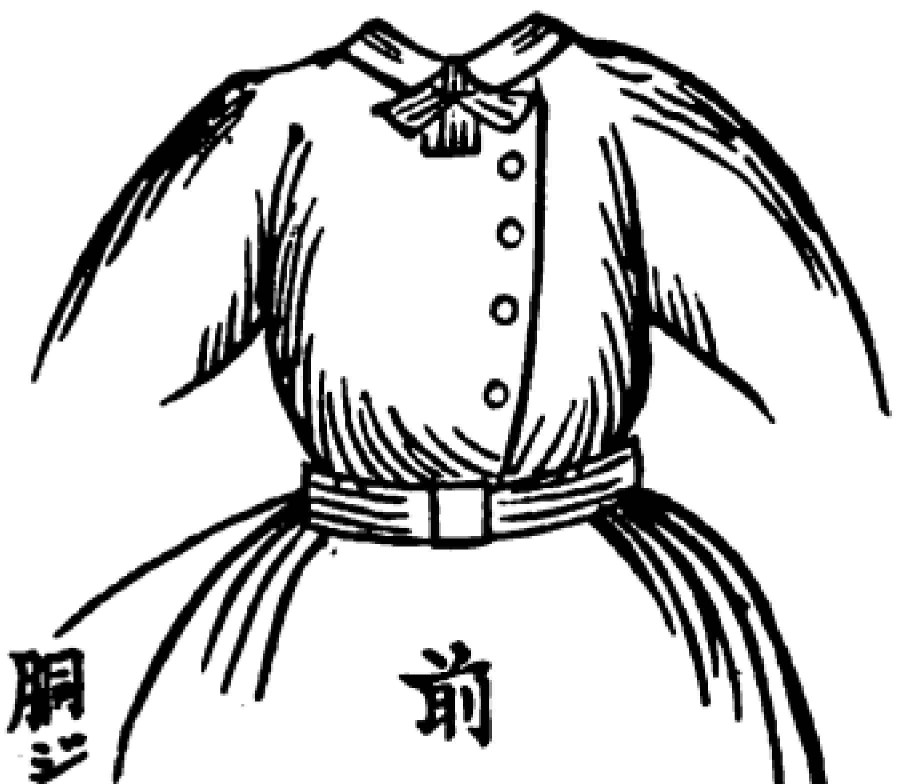


前面



後裏

左の二個ハ既に是迄に在たる改良服にて右と同形なれどもコルセットを鉄め胴を締めるものなり


前
胴ジメ

前

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

して飾り少なく後にバッスルを置かず、然かも裾短かくして殆んど靴の全部を顯はしをる位にして是迄の少女の服を見るの思あり、此の服多く少女より二十五六歳の婦人間に流行し學校生徒及び會社、銀行、商店等に勤むる婦人に用ゆる者最も多し服地は重もに黑、紺の薄き羅紗或はフランネル等にして右の乗片、及び裾の端に白き筋を付け居れり、然して服製斯く簡略に快濶なるが爲め氣質まで自然活潑になるのみならず實際に於て働く樣、及び歩き方抔活潑に見ゆるなり、シテ是れ等の女子は派手なる高價のボンネットを用ゐず手製の毛編帽子（日本にて書生のよく被ぶり居るもの）或は茶色、黑等の麥稿帽を頂き居るが故に中々活潑に見へて意氣也。

○シホの効用

され雄

食鹽は食物の調理に必要なるの外種々の効用あり其價値ら安き故に何人にても之を用ゆるとを得るなり。

食鹽を雜草に降り掛れば之を枯らし又た薬物抔のしみを去り毛髮の成長を促し黑羅紗を洗濯するとき其小量を水中に投し置くときは黑色の衰ふことなし。

西洋室の絨毯を掃除したる后雜巾に鹽水を含ませ之を拭ふときは其色澤甚だ美事になるべし若し又急きの塲合には絨毯の上に食鹽を降散き然る后掃除すれは其結果は前と同一なり。

凍りつめたる戸口前又は玄關前の敷石の上に多量の食鹽を散布せば木灰を散せしよりは其効驗著しく且見塲も亦宜し。

柳行李及疊を鹽水にて洗ふときは美事奇麗になるものなり。

食鹽は血液を清淨になすと云り且胸の焼けるとき半茶匕の食鹽を冷水に混じ飲用すれば直に治する得へし目の疲れたるとき鹽水にて洗ふときは快活を覺ゆべし。

毎夜鹽水にて含嗽するときは咽喉を强壯にし咽喉病に罹るの虞なかるべし又た毒虫に螫されたるときに食鹽を貼り用ゆれは消毒の効あり。

開書

○女學雜誌に物申さん

露島史

清秀偉麗の文章と純潔貞正の心とを以て最も熱心に笄釵社會の汚濁を掃蕩せんと期したる女學雜誌は如何にも希望の通り女性の德操を高め女性の志氣を振起せしめ因循の風を改良して今日あるを致したる大功の過半を引受けて既に業に成就せしめたり。然れば讀賣新聞は汝を評して聖使なりと讃美し汝の文章は聖經より胚胎し來れりと譽めたり吾も又斯く讃し斯く譽めん。然れども吾が讃辭や汝が潔白貞正にして熱心誠忠に清秀偉麗の筆を振つて女性の爲めに盡したる當時の汝を斯く云ふのみ、今は返て汝が縱横の筆を以て世を誤らん事を恐る者なり、感じ易き鋭敏の神經を有する女性をして道理的判斷を誤らしむる事なきかを氣遣ふ者なり。是何故なれば汝は一個の政治主義を持して世に出でたればなり。見よ其記事には往々にして社會の眞象を誤り否を强て自家の爲めに曲げたる如き記事雜報多き事を。吾が眼と吾が判斷力は汝を目して改進黨主義（改進主義と云はず）持する者なりと云ふを憚らざるなり。如何となれば其百八十三號に記載したる改進黨に忠告す、三政黨三對、條約改正の問題、之を權量せよ、親分と子分、と云へる記事の如き偏頗の最も甚だしき者にして熱心なる黨派心あるに非らずんば豈之を記載する者あらんや。汝は最早聖使に非らざるのみならず不公平にも偏僻にも惡弊を弄して世を惑す狂士なりと云はざる可からず、黨派心の爲め是非を誤りつゝある者と云はざるを得ず。汝若し幾時迄も聖使と呼はるゝを欲し權威の門よりも利益の門よりも導る正義の門に降らんとするの覺悟を有し又其覺悟斷乎として動かさずと最後の覺悟あらば是より少しく蒙省せよ事の眞僞と理の正濁を誤らざらんとに猛省せよ。若し又世事を看破するの明なくんば速に退て學術の部門に戾り讀賣新聞の諫を納れて再び純潔貞正なる聖使と成れよ。吾は汝の政治界に彷徨迷誤するを憐む者なり。若し摯拗にも强暴にも今日の儘に打過さば汝の名譽と汝の價値は是より益墜落せんのみ。去れば汝若し政治を議論せんと欲せば乞ふ充分に心を靜めて政界の波瀾を觀察し公平に純潔に筆を下して聖使たるの美名を落す勿らんとを日に三省して記臆せよ。

女學子附言。　厚意を謝す、他の觀て之を評するは、評する者の儘也、何如んとも爲しがたし、吾人は吾人が眞理に對し、人情に對し、上帝に對し、唯一の信ずる所ろを斷々乎として直言するに在る耳、既に現はれて文章となれるもの、是非は讀者の評に任す、吾人が衷心は僅かに机邊の一墨池、一筆枝と、更に一つの見ざる所ろなきものゝ知るある耳。

○高等女學校前教頭閣下

ゆかり

高等女學校に對する浮說の流布致し候せつ人心の激昂は一に矢田部校長と能勢教頭の上に集り聞くに堪へざるの批評を兩先生の上に蒙らせ二三の新聞紙は忠實に兩先生が退職を勸告したる事さへ有之小妹の如きも高等女學校のため矢田部能勢兩君の爲め我國女流の爲めに同樣の意見を有し居候ひき然るに能勢先生は衆人の希望勸告に背かず斷然其職を辭して清名を全ふし人心は先生が清廉、高潔、磊落なる君子たるを確認し此等の悲報は忽焉消滅し去て高等女學校無事に校長又安然たるを得、女學の上に大害を來さゞりしは先生が其職を捨つる吝ならざりしに依る義と深く先生が勇退を歎賞致し候。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

女學校の事たるや之れを外面より伺へば最も容易なるやに存ぜられ候へどもなか〳〵さるものにては無之小妹の如き其校舍に起居し教授にも從事致し候が普通の注意等にては間々失敗致し候女性は男子の方々が氣附き賜わぬ些細の事も堅く深く大に其感情を激動いたし他人の心なき言葉も意なき擧動も何さなく異なりて見へもし聞へもいたし候事多く從て嫉心羨意などの思ひも湧きいで候やに存ぜられ候、能勢先生が不頓着に磊落におわせし事こそ終に先生をして女子教育に付て失敗なさしめし第一の原因にて候べし、然れどもこわ深く先生を咎む可きに非ず先生の天質に不適當なる事は如何にするも不適當なれば早晩多少の失敗は可有之今日に於て先生が上に此僅少なる失敗によりて其不適當なる位置を去るの機會あらしめしは深く賀す可きの事と存候先生は男子の女子教育者を猛省せしめたり、先生は速かに去て天下女流の發達すべき大道を全ふし賜へり。先生安ずる處あれ世は先生を誤認致し居れり、先生喜び賜へ人は其誤認たるを確認せり。小妹は先生に對して慰むるの言多しと雖も十分に申上がたく候只疾筆早書愚懇を記し女學記者によりて先生に奉る如此早々。

櫻田 ゆかり

能勢 榮樣

●糊を腐らさぬ樣にする法の問、此頃の學藝雜誌にも見へし如く硼酸又は酢散など云ふを藥店にて求め程好く糊に混ぜ合せばよろし、●牛乳の善惡を知る法の問、沃度チンキを混ぜて見て色の矢張り黄なるは善し藍色になるは米の洗ひ水の混合したるなり●牛を殺す高何程の問、本年六月東京丈けの調べにては牛九百五十八頭にて内牝は七百二十四、牡は二百三十四頭なりし(同じく馬は百六十八頭、小牛は四十六頭、羊は七頭、豕は九十六頭)序でに申すが、其中尤多く殺るされたるは近江攝津の牛なり、又牝が餘計に殺るされしは、女が惡いゆへに非ず、牡は耕作に使ふゆへなり●新潟縣蒲原郡の井上女史に答ふ、普通の學藝を心得玉ふには文部省版の百科全書が宜しかるべし、又一二種有益の雜誌をも購讀あれ、基督教を早く知るには植村正久君著福音道しるべ及び眞理一斑、小崎弘道君著政教新論及び基督教と國家、など宜しからんと思ふ●主義を明言せよ其次第にて雜誌を購はんとの無名氏の問、吾社の大主義は數年來既に明白に述べ一も變る所なし、尙時事折々に關する事件に對しては其時々の意見あり、政黨に關しては無論超然として派外に立つ、其積りにて購讀あらば幸ひなり。

時事

二十九日脫稿

○天上大亂、天下太平

陰雲怪霧次第〳〵に鬱積せしが、俄然霹靂、電光烈射して、天上の大暴れとなりぬ。然し其はお上の事なり、大臣方何如に交替するとも大日本國に左程の影響あるにあらず、車夫は走り、お三は水を汲む、天下は至つて太平なり。

○政海暴風の旅日記

但し十一日以后、廿六日に至る、政海の模樣大略を心得置くも一興あらん、先づ其の尤も目立ちたるを云へば、十一日に伊藤博文君突然樞密院議長を辭し、十五日陛下の御前に於て閣議あり、山縣內務大臣條約改正に付て質問し、大隈外務大臣之に答へ、後藤遞信大臣の論辯あり、此夜京都行幸啓延引仰出さる、十八日大隈君難に遇ふ、廿一日、井上農商務大臣の辭表到來し、三田會議に於て諸大臣連帶責任を負ふて總員辭表を上るとに內決し、伊藤君再たび辭表を呈し。廿二日黑田總理大臣參內して其辭表及び他各大臣の辭表を上り、其后陛下の優詔ありて、各大臣一旦辭職を思止まりたるが。廿四日に至り、大隈、三條、山縣三大臣を除く外、皆な再たび辭表を上る、此に於て、伊藤君は神戶に走り、野村顧問官及び古澤書記官は

Digitized by Google

Original from COLUMBIA UNIVERSITY

山口に行く。廿六日に至り、三條内府總理大臣を兼任し、黒田君辭職聞屆けられて、樞密院顧問官となる。

○盲人大象を撫す

之に由て推察するに、内閣のモメは數月前より漸く烈しくなり、條約改正の事の爲に民心大に激昂し、政府部内にも人々勝手に異論するに至り、彼のモメいよ／＼發達し、薩長の折合ます／＼惡しく、遂に伊藤井上兩伯共に辭職するに至り、山縣伯條約改正に關して折中說等ろ循反對說を吐出するに至つていよ／＼破裂し、遂に黒田伯當然の如く辭職し、他大臣も初めは亦た當然の如く辭職し、后には種々の關係より更めて辭職するに至れり、此際三條内府の篤實なる、榎本子の忠實ある、樞密院先輩の老實ある仲裁勸和一と方ならず、アレに荒れ、スチにすね、立腹に立腹、變怪に變怪を重ねて、遂に三條内大臣總理大臣を兼ぬるに至れり。此激變中に殊に見立ちたるは、一方に薩摩方の黒田伯一人、他方に長州方ある井上、伊藤、山縣の三伯、並に井上、山縣恩顧の面々諸君（野村、青木、品川、末松の諸君）ありき。故に三條内閣成立の后ち、薩長の權衡何如に付きては、略ぼ推察すべき處あり。

○謹みて三條公爵に謝す

嗚呼、閣中混亂し、雲上暴風的なり、此時に於て勝手に保養するものあり、箱根に遊山するものあり、子供の病氣を見舞ふものあり、鰻丼二盃を傾むけて胃病に難儀するものあり、癇癖を起すものあり、和むるものあり、飛出んとするものあり、漁夫の利を希わんとするものあり、立腹と猜忌と、貪慾と卑劣と、臆病と強慾と、離合亂參する時、獨り古相公の誠實忠篤なるを見る、公素と政略家に非ず、然れども主席者たるの威望重し、願くは下も万邪を抑へて、上み陛下の宸襟を安んじ玉はんことを。

○中止后唯一の策

斷行と唱ふるものは若干の明文條件を有つ、故に兎に角漠然たる所ろあらず、若し夫れ中止を唱ふるものに至つては、種々の因緣より發す、未だ一々其由る所ろを明察す可らず、或は頑然として只た夷敵の内地に侵來するを憚ふるものあり、或は憤然として條約の純平たる對等に非らぬを不滿とするものあり、或は内治未だ整はず密かに雜居以后の邦民の爲に憂ふるものあり、或は此度の條約に由て十二年間束縛せられ數年後更に見込ある改正方ありても亦試がたしとて恐るゝものあり、其他議論にも成らぬ幾多の誤解、杞憂、偏見もあるべし、

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

然れども其の相和して斷行說に對するときは、悉く「中止」と云へる一聲の裏に凝めらる、斷行說果して多數か、中止說果して輿論か、未だ容易に判決す可らず、然れども若し實に中止に決せば、吾人は更に對等條約論者に加黨すべし、最早や此論者の外に吾黨の意見に近似するものあらざれば也。苟くも對等條約論者にして能く其責に任ぜば、暫時の「中止」は寧しろ一頓挫に過ぎず、少さか國の爲に慰さむべき也。

○女學雜誌の主義

女學雜誌は墮落したり、見よ、其の天職外に出でゝ政治界に入り、而も某政黨に加入したるに非ずやと云ふものあり、激しき人は烈しき書を投じ、親切の人は親切に諫め來れり、然れども如此き方々は未だ吾人が衷情を察せざるの人なり。

○政黨及び婦人

女性は喧嘩するものに非ず、喧嘩を和むるものなり、故に若し今の社會に向つて女性の爲すべき義務ありとせば、宜しく政黨的の喧嘩騷動を中裁すべし、決して自から其の仲間に入るべきにあらざる也。故に何如なる政黨にても若し正しき事を主張するときは之を勵ますべし、又何如なる政黨にても若し不正なるヿを主張するときは之を退ぞくべし、平生何等の政黨にも加入せざるが故に、亦何等の政黨にも贊成し何等の政黨にも敵對べし、蓋し是れ今の紛雜亂調なる世に立ち、公平なる仲裁者、信切なる和め手たるもの、當に爲すべき所ろたる也。

○吾人が地位

吾人は即はち今の婦女子が責任の當に如此くなるべきを信ぜり、故に苟くも今の婦女子の友となり、代表者となり、時あり幸にしては其先驅者ともならんと欲するに於て、吾人安んぞ先づ限られたる一種の政黨に入らんや、之を明言せば吾人は凡べての政黨なる者を嫌ふもの也、更に直言せば吾人は甚しく今の政黨なるものを嫌ふもの也、故に固より何れにも入りたくなし、入るべき必要なし、又た決して入るヿを許されざるもの也。

○女性の衷情

婦人白標倶樂部會員は去廿四日大隈伯の病氣を見舞ひ、慰めの品を遺して歸れり。京濱婦人大祈禱會に於ては、去廿六日築地新榮會堂の大會に於て、伯が遭難の事、內閣變動の事、陛下宸襟を安んじ玉はん事に付きて、熱禱したり。嗚呼婦人は何れの政黨にも、何れの人にも偏すべきものにあらず、只だ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

難にかゝるものあらば慰さめんを欲す、病に重きものあらば
看せんを欲す、國事に忠あるものあらば謝せんを欲す、殊に
我天皇陛下大御心を勞ませ玉ふときかば、泣祈哭禱して其事
の速かに去らんを望むもの也。女子の心涙の珠に滿てり、
何如んぞ邪僻の人に黨するを得ん。

○婦人慈善會

來る十四、十五、十六の三日、鹿鳴館に於て例の如く東京婦
人慈善會を開かれんとす、此度は其上り高を何の用に義捐せ
られんとする乎、當春毎日新聞は、之を論じ、右慈善會が餘
りに慈惠醫院にのみ偏倚するの不可なるを述べたり、吾人亦
た多少の同感なき能わず、殊に本年の如く水害非常なる時に
於ては、寧しろ如此く切迫に慈善を要するの地に義捐するに
若かずと思ふ。然れども吾人は必らずしも慈惠醫院に偏する
を以て不可と爲さず、又た目下水害地の爲めにするの外に出
づ可らずとも爲さず、慈善は之を何の爲めにするも慈善也、
故に吾人は今日の貴婦人が能く此に盡力せらるゝことを謝し、
敢て之と云ふ我意を述べざるべし。

○敢て一言す

但だ夫れ自らが義捐するのみならず、公衆の同感を促がし、
其寄附金を集めて或る事に義捨せんとするに於ては、先づ其
慈善市を開くの前に於て、此市は何の爲めにする乎と云ふと
を明言せざる可らず、慈善は固より何事に向けても矢張り慈
善なりと云へど、餘裕なきものが、其僅々たる志を寄附せらる
に於ては、尤も切要、尤も必迫の地に之を寄せんとを欲する
や當然也、例へば同一の水害に向つて寄附するものと云へど
も、或は和歌山に向つて爲し、或は福岡に向つて爲し、各自
其欲する所ろの地を撰ぶに非ずや、左れば漫然たる慈善市の
名を以て慈善を促がすに於ては、之に同情を表す者の又踟躇
疑惑して、應ずる者の、甚はだ少なからんを恐る、故に吾人は
今回の慈善市に向つて必らず何々の爲めに發企せよと忠告せず
然れども何々に向つて爲すと云へることを豫じめ廣告すべしと
忠告す、市終り、諸夫人が志成り、而して后ち世に彼此と云
ふものを生ぜば、諸夫人の爲めに憾み鉤りなけん。

○國會及び婦女子

衆議院議場人民傍聽席の中へ、殊に婦人傍聽席を設くべきや
否やの件、近日一問題となれるよし、而して甲是乙非の末へ
遂に之を設くることゝなれり。然れども果して米國に於ける如
くに之を開放する乎、もしくは英國に於る如く金あみにても

張らるゝ乎、吾人之を知らず、然れども吾人は婦人傍聽者の正潔なる批評が、能く議事をして正潔に趣かしむるに効あらんことを祈り、止む能はず。

○政黨並に離縁の事

政治論、否な寧しろ政黨論によりて、一家の內事をすら騷動せしむる者、左の如き奇談あり、

離縁狀の事

一　其許殿と三ヶ年前結婚致し候處、其許殿實父今回新條約斷行說を唱道致し被居候に付、我等と主義を異にし、親族睦まじからず、家風に適せず候間、今度離縁致し候、然る上は將來何如なる異主義の者へ縁付き被成候共、我等に於ては一切申分無之候、仍而離縁狀如件

植松伴吉

大谷しげ殿

右植松氏とは、大坂平民社より發行する「新社會燈」の編輯人にして中止論を主張する人ありと云ふ。

○細君

金澤市會議員近八郞右衛門氏、盈進社の壯士に暴行を加へらる、近氏の細君盈進社長遠藤秀景氏に向つて手强き談判を申込み、さまざまの申譯を一切聞入れず、只管ら同社長がアヤマリ證文を出すことを要し、毎度同社に行て嚴しく掛合はる、其雄辨豪膽實に慴服すべき程の由、勇ましきこと也。

○楠正成

宮城正門外の銅像裝置せらるゝとて、博物館總長九鬼隆一氏によつて普ねく圖案懸賞の募集を成されけるに、川端玉章、岡倉秋水二氏が案に成れる、楠廷尉正成が甲冑を着し戰馬に乘れるの圖に決定せられしよし、其匠構の良否は見ざれば言はず、人物の楠氏に定められたるは實に喜ばしきこと也。

(　)我國の男女

昨廿一年十二月三十一日、內務省に於て調べたる全國人口表の公けになれるを見るに、人口は三千九百六十万七千二百三十四人にして、男二千万八千四百四十五人、女千九百五十九万八千七百八十九人、戶數七百八十万二千八百二十七戶なり、左れば

男の女よりも多き事　四十万九千六百五十六人なり
一軒の家族人數平均　五人づゝ

又年齡に由て比較するに、一年より五十九年迄は男の方多けれども、六十年より後は女の方長壽なり、其より段々高年となるほど男は早く死し女は長生すと見へ、九十年の男は一千百人餘なるに女は二千三百餘人なり、百年の男は廿一人なるに女は四十八人なり、百七年に至つては女一人なれど男にはなし。又全國中にて、男よりも女の人數の多き國は、大坂、長崎、新潟、埼玉、群馬、栃木、愛知、滋賀、福井、石川、熊本、沖繩の十二縣也。總人口三千九百六十餘万人の內、連添の無き男は二千四百七十六万七千三百二十八人にて其內男の方女よりも少しく多し、連添ある男女の夫婦は都合七百四十一万九千九百五十三對なり。又去年中婚姻したるもの三十三万〇二百四十六回にて離婚したるもの十万九千百七十五回なり、左れば十軒のお目出度があれば三軒三分に泣事あり、百軒の村にて花よめが笑へば其內三十三軒の嫁は追出さるゝなり、實に悲しき事にあらずや。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○女報

○東京感化院慈善會第一總會　東京感化院慈善會は去月廿二日駒込吉祥寺にて創立第一年の總會を開き役員の撰擧及び會務の報告等ありし由。

○大隈伯の看護婦　大隈外務大臣の看護婦は東京慈惠醫院卒業の近藤かつ子、竹内菊尾子、山田いつ子の三氏なりと。

○結婚年齡　其筋にては豫て結婚年齡取調委員を設け本邦人に適する結婚の年齡を調査せしめられしが委員の人々は結婚の早期を男子滿十七年女子滿十五年を適當なりと評決せし由。

○尋常師範校の女子　文部省令第七、八、九號等にて尋常師範學校女生徒の學校中、家事の時間を減じ、募集規則に十七年以上二十年とありしを女子は十五年以上二十年とし、服務規則に十ヶ年とありしを女子は五ヶ年間となりたり。

○本日午后一時　小石川後樂園に於て婦人衛生會の親睦會あるよし。

○安藤太郎氏　ハワイ總領事安藤太郎氏歸朝に付き禁酒主義の知友及び婦人矯風會の會員は、去廿五日神田三河屋に同氏及夫人を待し歡迎したり、席上安藤氏が禁酒に決せられし顚末の感話を聞き、贊歎無限。

○米國女子靑年會　前號に記載したる同會の年會は本月八日より十二日迄チカゴにて開かるべし。

○女教師　橫濱市老松學校の訓導たりし安藤みつ子は第三回教員學力檢定試驗委員勤務中勉勵せしを以て金若干圓を手當として神奈川縣廳より府廳を經由して去月廿二日下賜せられたりと云ふ。

○婦人教會　美濃國武儀郡關町の正覺寺に於て眞宗僧侶の發起にて關婦人會を設立し去月十一日其の發會式を執行したる由。

○女流の建白　岡山縣尋常師範學校女子部を始め山陽英和女學校玫瑰女學校婦人英學舍の教員及び女主徒其他基督教天主教の女子等は耆來我國に行はれ居る和姦の惡弊を一洗せん爲め適當なる方法を創定せられんとを其の筋へ建白せんとて目下盡力中なりと云ふ。

○新誌

時事新報　廿三日　伊藤伯の辭職●廿四日　政黨の機關新聞●廿五日　政海の事情●廿六日　内閣員の辭職に就き●廿七日　三條總理大臣●廿八日　蕃内閣の辭職新内閣の組織●廿九日　責任内閣の端緒

毎日新聞　廿三日　何ぞ快刀亂絲を截ざる乎●廿四日　政府の成立を望む●廿五日　人を殺すに文章を以てする者あり●廿六日　無謀の常に國計を誤る●廿七日　責を優詔の下に逃るゝと勿れ●廿九日　守舊の徒國權を縮めたるの先例

東京新報　廿七日　三條公爵の内閣●廿九日　新内閣大臣に望む

政論　廿三日　改進黨の自家撞着●廿四日　改進黨の爲めに之を惜む●廿五日　内閣諸公に望む●廿六日　内閣員の總辭職●廿七日　人民今後の責任●廿九日　内閣の新組織を論ず

讀賣新聞　廿三日　内閣の組織改めざる可らず樞密院廢さゞる可らず●廿四日　前接●廿五日　前接●廿六日　前接●廿七日　前接●廿八日　三條内閣の組織整備したる歟●廿九日　斷行斷行はれずんば中止内閣を組織せよ

報知新聞　廿四日　暗刺狙擊の惡風の日本に與ふる所の害毒●廿五日　前接●廿六日　内閣堅固の必要、治亂の機、間髮を容れず●廿九日　内閣組織論

朝野新聞　廿三日　目下の急務は内閣の結合一致を謀るに在り●廿四日　内閣の未來如何●廿五日　如何なる新内閣を組織すべき乎●廿六日　内閣總理大臣の交迭●廿七日　聯帶責任の實を擧げよ●廿九日　再び聯帶責任の實を擧げざるべからざる所以を論ず

日々新聞　廿三日　然る後ち方針を一定すべし●廿四日　内閣の一致を鞏固にすべし●廿五日　内閣の變動●廿六日　内閣交迭●廿七日　三條内閣●廿九日　前接

日本　廿七日　内閣の變動●廿八日　新内閣は如何なる原案を以て組織すべきか●廿九日　今日の急務、内閣の方針

○新刊

○眞理　月一回發一冊八錢　世光社

○文學評論しがらみ　月一回發一冊七錢　新聲社

前週間二種の獨逸文學的雜誌を得たり、而して其好尙理想の明らかに相違するのみならず、記事往々相反駁するを見る、實に是れ源平白馬赤馬の并び顯出たるに似たり。「眞理」はスピンチル氏一派の獨逸宗教會々員より發行するものにて、高等純正なる宗教、文學、美術等の論說を揭ぐるものなり。之に反し「しがらみ」はS.S.S.と號する獨逸學者、和文學者、漢學者等の文學會より發行するものにて、森林太郎氏主筆となり、專ら文學の評論を爲すと云へり、佐藤元長氏「環浦懷古」の歌に、涙のうへにたゞよふ月を浦風のむかし忍べと打かへすらん、とあり願はくは如此き調にて進まれたし。

○報知新聞、内閣組織論

廿九日の社說は例の如く老實誠忠なり、吾人亦た遺憾ながら之に贊成せざるを得ず、蓋し今日の機に乘じて内閣を刺衝し、大臣の位置に激烈なる變動を起さしむるは、國に益多からず、亦何の新大臣か敢て如此き愚を爲さんや。國會開設后の日本人は、維新以來の舊大臣に向つて問ふ所あるべし、舊大臣は亦た總勘定を調べて其責任を報ずべし、之に先だつ僅かに一年に於て、伊藤伯も去らせ、井上伯も去らせ、黑田伯も去らせ、其他多くの尤も責任重かりし大臣等をも去らせ、國會に於ける吾々は抑そも何人より報告を聞ん。而して諸大臣が今日に於て勇退するは決

●注意　來六日七日、靖國神社祭禮の夜吾社前に於て禁酒上、教育上、女學上のうつし繪を催うすべし。

して勇退にあらず人あり之れ其責を逃るゝ爲め也と云ふものあるも、盖し諸伯に適當なる辨解あらじ。

○毎日新聞、無謀の蠻常に國計を誤る

毎日新聞は大久保彥左衛門の倘若きもの也、故に勝安房伯は常に之より現わる、其說論常に忌憚する所ろなく、一種新鮮の生氣斷えず逸流するは實に愛讀すべきもの也。特に前週來文章更に活化せり、二十六日の紙上「無謀の蠻常に國計を誤る」一篇の如きは、慷慨痛切にして、恨思、歎思、満紙面に漲ぎる、安政五年島津齊彬が勝安房に與へし書中「外國の事情をも存ぜず時と位を辨ぜず神洲の御恥辱と一圖に相考へ必勝の見据えも無之色々申し立て候者又浪人共立身の爲め口に任せ申し立て」云々を引き、維新前勝伯が斷然歸順の大計に自任したると、近世大久保氏征韓論及台灣の事件に際し、毅然として自信自任したる事を例とし、遂に大隈伯近日の遭難を評して、之を伯一身の榮幸とし、國家百年の大不幸としたり。其慷慨に對しては同情を表す、其文章に對しては畏愛を呈す。

○政論、改進黨の爲に之を惜む

條約改正を非とする新聞紙中に於て、其言の温として且つ剛わきは恐らく「政論」新聞なるべし、廿四日の紙上、改進黨の爲に之を惜むの一章は甚はだ、急所に當れり。吾人亦た夙に左樣に思ひたりしが、現に反對改進黨の人の筆より明知したるは、之を最となす。

○文庫、戀山賤

文庫第廿七號、紅葉山人の「戀山賤」と云ふ讀切りの小說あるよし。社友來りて云ふに、之れ近來の出來なり、君もし之を惡るく言ふならば、共に文學を談するに足らずと。余は今の時世に左樣な大したものが出來る筈なしと思へど、少しく口惜しさに讀んで見たり。成程よく出來たり、特に其の下、山賤がフト煩腦心を起し、乍まち又後悔して、身の毛よだら、目をれぶりて唱名申すところ、中々の筆なり。夫れ西鶴の文は、子ヂリたる太とき白銀の如し、重くるしく、言葉足らずに述ぶる所ろに、一種の味あり、猶は白銀の其色を反射し、ウヂリうれる中に御光を發つに似たり。故に、句を練り文に苦心する人にして之に傚ふときは、一層の名文を得べし、山人は丁度好きお弟子なり、其文章之を以て見るべし。など云へば意張るやうなれど眞實に思ふなり。情を寫して、何にとなくチカシ、若し涙主眼の新著仲間に入らるゝならば、先師は草葉のかげより泣き玉ふならん、山人は古に在ては、病氣中の曾呂利を友とし、今に在てはマヅ日になれる篁村君の合棒となり玉へかし。

○日本人再生

日本人は、九月五日發行停止の命を蒙むり、去廿日解停せられたり、彼は雜誌中の多感なるものなり、而して多感文中の光も多感多情なるは盖し志賀重昂氏の文なり、第三十三號「嗚呼日本をして判任國たらしむる勿れ」の一篇の如き、悉とく女性的の掛念、同情、推察より來る、辭ば燃えて火の如く、花の如し、末段大隈伯に加擔する斷行論者を以て石田三成に黨したる刑部少輔に對し、信切にも之が心事を推察し、之が高義に泣かれたり、吾人亦た坐ろに涙を催しぬ。

週報

○宮庭　去る廿六日築地天主堂に於て故葡國皇帝陛下の弔祭執行に附き能久親王殿下を御名代として差遣はされたり●皇后陛下は去る廿八日東京慈惠醫院へ行啓あらせられたり

○政治　去月廿二日各大臣は內閣に參集して會議を開きたり●大同倶樂部の人々は去月廿日政論社に會して一の政黨を組織し其總理には後藤伯を推すると議決せり●井上農商務大臣は去月廿一日郵便にて辭表を差出されたり●去月廿二日內閣各大臣ハ辭表を出されたり●同日警視廳より警部巡査を派出し東京倶樂部の家宅捜索を爲せり●去月廿五日黑田總理大臣依願免ぜられ三條內大臣總理大臣を兼任せらる●同日黑田伯樞密顧問官に任ぜらる●去る廿八日山縣、松方、山田、大山、榎本の諸大臣は復職を命ぜられたり●伊藤樞密院議長は願に依て去る三十日本官を免し宮中顧問官に任ぜられたり

○外交　露國在留特命全權公使西德次郞氏は同國彼得堡に於て開かるゝ万國海事會議へ委員として參列すべき旨命せらる●佛國公使シエンキウヰチ氏は去る廿六日大隈伯を見舞ひ夫より外務省へ出頭せられたりと●田中特命全權公使は去る廿七日故葡國皇帝の葬式に參會したり●英、露、伊、獨、佛等の諸國より大隈伯の遭難を慰問せらる

○會社　讃岐鐵道會社は第三回定式總會を去月廿日大阪に於て開きたり●關西鐵道會社も同日株主總會を開きたり●丹羽維孝、藤平資重、吉田知行、原亮三郞、伊藤重保、安藤三男等の諸氏は北海道製紙會社なるものを設立せり●交詢社關西支社去月廿七日を以て大阪に設立せらる●大阪鐵道會社は去月廿五日總集會を開き增株募集の件を議了したり

○美術　日本園藝會發起人諸氏は去月廿一日築地の花房宮中顧問官の邸に於て協議會を開きたり●本月三日より上野公園內美術協會に於て大日本美術展覽會を開かる●畵伯福島柳圃翁は去月廿二日死去したり

○教育　去月廿六日上野公園華族會舘に於て教育展覽會褒賞授與式を執行せり

○宗教　ユニテリアン宗のアーサー、メー、ナップ氏は去月廿三日再び渡來せられたり●全國淨土宗の僧侶は去る廿九日芝清正寺に會し宗務及び僧侶撰擧權に關する件を協議せり

○雜報　去月二十日小松宮殿下は近衞兵營に臨ませられ各隊長を招集して訓諭あらせられたり●東西新聞は去月廿二日發行停止を命ぜらる●大阪有名の義太夫語り柳適太夫死せり●安濃津新報は去る廿三日解停せらる●紀陽新聞は廢刊せり●濃飛日報は停止せらる●東雲新聞停止を命ぜらる●鳥取新聞は去月十八日解停せらる●石川縣下の大工事三坂峠の新道は去月十五日竣工を告げたり●京都の納税者は去月廿四日相會して納税者團結なる者を組織せり●東京新報は去る廿六日解停せらる●日本も同日解停せらる●去る廿七日發國の水兵橫濱に於て暴行せり

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

和歌三代集
同滲用揩

袖珍形銅版縮刻帙入頗ル美本
全六册正價七十五錢豫約前金五十錢○郵税四錢

絹帙入上等美製本全三册
正價九十錢豫約前金六十五錢
郵税二錢

右三代集ハ古今和歌集。後撰和歌集。拾遺和歌集等ノ合稱ニシテ悉ク御歴代ノ勅撰ニ係リ古今名家ノ秀詠ヲ集メ頗ル有名ナル歌集ナルヲ以テ世ノ歌讀ミ文書ク人ノ常ニ座右ノ模範トナリ世ニ行ハル、ヤ是ニ久シ今ヤ弊店ニ於テ諸君ノ旅行携帯カバンニ入レ及机上ノ扱ヒ等ニ便ナル爲メ袖珍ニシテ彫刻ノ鮮明ナル製本ノ美麗ナル者ヲ出版セシト是ニ廣メノ爲メ五百部限リ豫約販賣ス但豫約ノ多少不論出版スルモノ故諸君ハ十一月十五日限リ全價御遞送アラン事ヲ而シテ此期ニ遲レタル諸君ハ一切謝絶シ更ニ普通價ニ依ル○該本ハ十一月十五日ヨリ順次通運又ハ其求ノ便ヲ以テ遞送ス○見本ハ二錢郵券封入請求次第呈送可仕候○郵便切手代用ハ一割増

東京 日本橋通四丁目 書林椀屋 江島伊兵衛

婦女 **災害義捐金寄附者姓名**

各地へ

金五圓	築地新榮女學校	へイス
同壹圓七十錢	同	幼年生徒
同貳圓	神戸下山手通六丁目	菊子
同壹圓	長野櫻枝町	山口某女
同五十錢	同	山口義子
同五十錢	同	長谷川久子

和歌山縣へ

金壹圓	四ッ谷區信濃町十三番地	野崎わか子

小計拾壹圓七十錢
合計金貳百六十六圓四十七錢

歐米製小間物大勉強大安賣廣告

御婦人用 リボン　御婦人帽子用 駝鳥羽類　上等絹皮手袋
ゴム上製 櫛に并簪類　絹綾縫取リンチル ハンケチ品々
上等粧用 花類　男女帽子類　上等毛織 肩掛膝掛類
佛國ピノオ製 香水香油　英製上等 ナイフ　御婦人用 服地
上等 毛靴下　大小莫大小毛襦袢 股引　其他 小間物數品

弊店儀從來歐米各國の小間物類營業罷在候處幸に各位の御愛顧を蒙り日増に繁榮仕り難有奉謝候就ては今般追々冬季に向ひ種々新荷着仕候間諸品とも凡て正札付にて極廉價に販賣仕候元來弊店に於ては場違摸造品等は一切無之爲めに常港居留外國人は外國館小賣店を差置き弊店品質の善良と價の廉なると誠實なるとを賞賛し日々御來車御需に相成又内國は高位の貴顯紳士令孃方を初め各學校の女生徒方に至る迄態々東京より御來濱被遊弊店へ御用被仰付候間猶一層御高評の程奉希候譯て本年は御婦人用**流行の洋服**數種新着仕り候間何卒御需の程偏に奉願上候也

二伸東京御客樣にて御需に相成候向へは金高に應じ品名御通知被下候はば種々持參上京可仕候也

横濱市境町一丁目
西洋 **小間物商 近江屋榮太郎**

同境町二丁目公園地前
西洋小間物卸 **引取店 近江屋榮助**

附言 御仲間の御方は公園地前引取店へ御來車被下度各商館へ取引は深切に精々勉强仕候

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

眞理

本誌ハ宗派及政黨ノ外ニ挺然獨歩シ專ラ道德宗敎ニ係ル眞理ヲ講究シ其時論ヲ痛議スルヲ本領トシ又兼テ政治、敎育、哲學、美術ノ問題ニモ涉リ公平不偏ノ觀察ヲ下シ内外大家ノ論說ヲ蒐集シテ參考ニ供シ批評ニ備ヘ又特ニ我國男女青年ノ德育ニ就テハ最モ意ヲ留メ力ヲ盡シテ其指針タリ良友タランコヲ期スルモノナリ

毎月一回廿五日發行●一冊金八錢●全國無遞送料
廣告料一行(二十四字詰)ニ付金七錢(行數同數ニヨリ割引アリ)

第一號目錄　十月廿五日發兌

眞理　立憲最後の事業、基督信徒の責任

論說　『眞理』
基督敎と世界主義、鎖國主義、愛國主義の關係　チ、シュミーデル
政府が宗敎と敎會に對する位置を論す(第一)政府は宗敎を制定すへき歟　駿台居士

聖書　批評的歷史的及道德的青年の聖書
四福音書及使徒行傳概論

學林　Acta Pilati　まみ

雜錄　プレスビテリアン派の自由家●奇怪なる巴比倫塔(圖入)●ベルリン府著述家の數●獨乙新民法草案の家婦の權●文園摘英●賢哲辭世の語

雜報　内報廿二件外報八件

投書　外來物? 理想的?　M生

書　時事月報●普及福音敎會錄事

發行所　東京市駿河臺鈴木町十一番地　世光社

○レース傳習女子募集廣告

當「レース」傳習所の業務は逐々隆盛に付今般業務を擴張し規則を改正し更に女生徒七十名を募集候間滿十四歲以上にして家計を助け若くは獨立の生計を營まんとする女子は毎水曜日午後二時より四時迄に當傳習所へ申込あるべし
「レース」は女子に最も有益の業務にして其技術の巧拙に依り差等あれども毎月凡そ二圓以上五圓以下の賃錢を得る難からず
一傳習は凡そ一ヶ月にて卒業すべし傳習中に係る「レース」と雖も相當の價を以て買とるべし
一傳習の器具等は一切貸し渡すべし
一當傳習所の授敎はドクトルヘーリング夫人專ら負擔され其他日本敎師西浦ちやう子外數名あり
一當傳習所は普及福音敎會と密接の關係を有す

本鄕弓町壹丁目二番地壹岐坂會堂内
レース傳習所

廿二年十月

定價	一冊。六錢　郵税。五厘		
	十冊。五十八錢郵税。五錢	(但府内無郵税)	
	半年分	一圓四十三錢	府外は　一圓五十六錢
	一年分	二圓六十錢	府外は　二圓八十六錢 (同前)
廣告	一行　一回	前金拾錢	(廿七字詰)
	同　三回以上	一割引	
	同　六回以上	二割引	

發行所　東京麴町區富士見町二丁目一番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

遞信省認可

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY